

(様式第10)

厚生労働大臣 殿

関病発第22X02 号
令和 4 年 10 月 5 日
開設者名 学校法人 関西医科大学
理事長 山下 敏夫

関西医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和3年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒573-1010 大阪府枚方市新町2丁目5番1号
氏名	学校法人 関西医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

関西医科大学附属病院

3 所在の場所

〒573-1191 大阪府枚方市新町2丁目3番1号
電話(072)804-0101

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	有
内科と組み合わせた診療科名等	
<input type="radio"/> 1呼吸器内科	<input type="radio"/> 2消化器内科
<input type="radio"/> 3循環器内科	<input type="radio"/> 4腎臓内科
<input type="radio"/> 5神経内科	<input type="radio"/> 6血液内科
<input type="radio"/> 7内分泌内科	<input type="radio"/> 8代謝内科
<input type="radio"/> 9感染症内科	<input type="radio"/> 10アレルギー疾患内科またはアレルギー科
<input type="radio"/> 11リウマチ科	
診療実績	
・アレルギー疾患内科またはアレルギー科の内容は呼吸器内科、小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科で診療している。 ・神経内科の診療内容は脳神経内科にて提供している。	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
○	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
内分泌外科の内容は、耳鼻咽喉科、泌尿器科で診療している。							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	血液・腫瘍内科	2	肝臓内科	3	心療内科	4	糖尿病内科	5	肝臓外科
6	胆のう外科	7	肝臓外科	8	頭頸部外科	9	形成外科	10	リハビリテーション科
11	病理診断科	12	臨床検査科	13	脳神経内科	14	脳血管外科	15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
0	0	0	0	751	751

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	398	128	427.8
歯科医師	5		5
薬剤師	61	5	62.4
保健師			
助産師	55		55
看護師	832	55	871.9
准看護師			
歯科衛生士	10		10
管理栄養士	6	4	6.5

職種	員数
看護補助者	175
理学療法士	30
作業療法士	7
視能訓練士	9
義肢装具士	
臨床工学士	22
栄養士	
歯科技工士	
診療放射線技師	47

職種	員数	
診療エックス線技師		
臨床検査	臨床検査技師	71
	衛生検査技師	
	その他	
あん摩マッサージ指圧師		
医療社会事業従事者	10	
その他の技術員	32	
事務職員	186	
その他の職員		

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	39	眼科専門医	15
外科専門医	40	耳鼻咽喉科専門医	12
精神科専門医	3	放射線科専門医	13
小児科専門医	17	脳神経外科専門医	9
皮膚科専門医	4	整形外科専門医	17
泌尿器科専門医	9	麻酔科専門医	16
産婦人科専門医	18	救急科専門医	12
		合計	224

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (松田 公志) 任命年月日 令和 3 年 4 月 1 日

2006年1月1日～2010年3月31日 安全対策委員(セーフティマネージャー)
 2020年4月1日～2021年3月31日 医療安全管理責任者
 2021年4月1日～現在 医療安全管理センター 兼務

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	667.9 人	1.2 人	669.2 人
1日当たり平均外来患者数	2113.7 人	54 人	2167.7 人
1日当たり平均調剤数		985	剤
必要医師数		190	人

必要歯科医師数	4	人
必要薬剤師数	23	人
必要(准)看護師数	408	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数		心電計	
集中治療室	891.7 ㎡	鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)耐火建物	53 床	有	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	151.5	㎡	病床数	14 床
	[移動式の場合]	台数		台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積			53	㎡
	[共用室の場合]	共用する室名			病棟業務課	
化学検査室	405.3 ㎡	〃	(主な設備)	AU-5800,Atellica,Alinity i,XE-2100,CS-5100		
細菌検査室	112.9 ㎡	〃	(主な設備)	安全キャビネット,バクテアラート3D,BDフェニックス		
病理検査室	299.9 ㎡	〃	(主な設備)	カセット印字機、スライド印字機、パラフィン浸透機、免疫染色機		
病理解剖室	118.9 ㎡	〃	(主な設備)	パラフィン浸透機、包埋センター、ドラフトチャンバー		
研究室	8193.8 ㎡	〃	(主な設備)	顕微鏡、冷却遠心機、CO2インキュベーター		
講義室	363.4 ㎡	〃	室数	2 室	収容定員	210 人
図書室	1135.2 ㎡	〃	室数	1 室	蔵書数	52000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	73.2	%	逆紹介率	53.7	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		21090		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		16590		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1532		人
	D: 初診の患者の数		30905		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況

藤本 良知	枚方市医師会 名誉会長	○	地域医療に関する学識 経験者	無	1
森田 眞照	市立ひらかた病院 顧問		病院機能に関する学識 経験者	無	1
永井 仁美	茨木保健所 所長		公衆衛生に関する学識 経験者	無	1
吉野 敬昌	枚方信用金庫 理事長		医療を受ける側の代表 者	無	2
谷川 昇	関西医科大学医学部 放射線科学講座教授		医療に関する学識経験 者	有	1
蔦 幸治	関西医科大学 臨床病理学講座教授		臨床病理に関する学識 経験者	有	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
本学ホームページにて公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツズマブ静脈内投与の併用療法 切除が可能な高度リンパ節転移を伴う胃がん(HER2が陽性のものに限る。)	0
S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 膵臓がん(遠隔転移しておらず、かつ、腹膜転移を伴うものに限る。)	6
陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。) 【外科的治療を実施する施設】	0
術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん(ステージがⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	15
遺伝子組換え活性型血液凝固第Ⅶ因子製剤静脈内投与療法 脳出血(発症から二時間以内のものに限る。)	0
LDLアフェレシス療法	0
ニボルマブ静脈内投与及びドセタキセル静脈内投与の併用療法 進行再発非小細胞肺がん(ステージがⅢB期、ⅢC期若しくはⅣ期又は術後に再発したものであって、化学療法が行われたものに限る。)	0
マルチプレックス遺伝子パネル検査 難治性固形がん(ステージがⅢ期若しくはⅣ期で手術が不能なもの又は治療後に再発したものであって、治療法が存在しないもの又は従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限り、肉腫を除く。)	0
先進医療の種類合計数	8
扱い患者数の合計(人)	21

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第二百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘出術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要			
<p>根治的子宮癌手術は、比較的早期の子宮癌に対する最も一般的な治療法であるが、手術的には他の開放手術に比べて出血量が多く、また侵襲性の高い術式であった。1990年頃に腹腔鏡下手術の当該術式への適応が模索され、開腹手術に比し出血量が少ないこと、術後疼痛が軽微であることが多くの利点が提唱されてきたが、2次元視野での難易度の高い術式あることは否めない。手術支援ロボットであるda vinciは三次元視野下での手術操作を可能とするとともに手術野に挿入された鉗子の先端部が広い自由度を保持した関節機能を有する事により小骨盤腔という極めて狭小な手術野での鉗子先端部の自由な可動域を得ることにより、従来は難しいとされた鉗子操作を容易に行えることが可能となり、気腹圧による静脈出血の制御という腹腔鏡下手術の利点と手術操作の可動域の拡大を兼ね備えた画期的手術手技となり得ることが明らかになってきた。加えるに10倍の拡大視野下での手術操作により、神経、血管等の確認を容易とし、確実な尿管の剥離、より確実な子宮動脈の剥離結紮を可能にするなど従来の開腹手術では期待できなかった多くの利点がある手術である。</p>			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	1
取り扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績等

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	10	56	ベーチェット病	86
2	筋萎縮性側索硬化症	46	57	特発性拡張型心筋症	60
3	脊髄性筋萎縮症	0	58	肥大型心筋症	43
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	36	60	再生不良性貧血	49
6	パーキンソン病	353	61	自己免疫性溶血性貧血	16
7	大脳皮質基底核変性症	9	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	2	63	特発性血小板減少性紫斑病	290
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	2
10	シャルコー・マリー・トゥース病	7	65	原発性免疫不全症候群	13
11	重症筋無力症	160	66	IgA 腎症	145
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	41
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	52	68	黄色靱帯骨化症	49
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	40	69	後縦靱帯骨化症	168
15	封入体筋炎	2	70	広範脊柱管狭窄症	3
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	58
17	多系統萎縮症	26	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	66	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライゾーム病	5	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20	副腎白質ジストロフィー	3	75	クッシング病	7
21	ミトコンドリア病	3	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	55	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	0
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	0
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	36	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	3	83	アジソン病	3
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	164
30	遠位型ミオパチー	1	85	特発性間質性肺炎	38
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	8
32	自己食空胞性ミオパチー	1	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	7
34	神経線維腫症	49	89	リンパ脈管筋腫症	4
35	天疱瘡	30	90	網膜色素変性症	96
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	1
37	膿疱性乾癬(汎発型)	1	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	ステーヴンス・ジョンソン症候群	3	93	原発性胆汁性肝硬変	122
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	10
40	高安動脈炎	4	95	自己免疫性肝炎	113
41	巨細胞性動脈炎	10	96	クローン病	167
42	結節性多発動脈炎	15	97	潰瘍性大腸炎	415
43	顕微鏡的多発血管炎	37	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	9	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	34	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	1
46	悪性関節リウマチ	15	101	腸管神経節細胞僅少症	1
47	バージャー病	7	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	284	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	128	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	153	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	47	107	若年性特発性関節炎	3
53	シェーグレン症候群	230	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	24	109	非典型溶血性尿毒症症候群	2
55	再発性多発軟骨炎	12	110	ブラウ症候群	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績等

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	5	161	家族性良性慢性天疱瘡	4
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	2
113	筋ジストロフィー	6	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	2
115	遺伝性周期性四肢麻痺	1	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	1	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	12	167	マルファン症候群	6
118	脊髄髄膜瘤	1	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	4
122	脳表ヘモジデリン沈着症	1	172	低ホスファターゼ症	1
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳	0	174	那須・ハコラ病	0
125	動脈症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	性白質脳症	0	177	ジュベール症候群関連疾患	0
128	ペリー症候群	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	前頭側頭葉変性症	0	179	ウィリアムズ症候群	1
130	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	180	ATR-X症候群	0
131	痙攣重積型(二相性)急性脳症	1	181	クルーゾン症候群	1
132	先天性無痛無汗症	0	182	アペール症候群	0
133	アレキサンダー病	0	183	ファイファー症候群	1
134	先天性核上性球麻痺	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	メビウス症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	アイカルティ症候群	0	187	歌舞伎症候群	0
138	片側巨脳症	0	188	多脾症候群	0
139	限局性皮質異形成	0	189	無脾症候群	0
140	神経細胞移動異常症	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	先天性大脳白質形成不全症	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ドラベ症候群	0	192	コケイン症候群	0
143	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	5
144	ミオクロニー欠神てんかん	0	194	ソトス症候群	0
145	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	195	ヌーナン症候群	0
146	レノックス・ガストー症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	ウエスト症候群	2	197	1p36欠失症候群	0
148	大田原症候群	0	198	4p欠失症候群	0
149	早期ミオクロニー脳症	0	199	5p欠失症候群	0
150	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	環状20番染色体症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	ラスマッセン脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	3
154	PCDH19関連症候群	0	204	エマヌエル症候群	0
155	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳	0	206	脆弱X症候群	0
157	ランドウ・クレフナー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	レット症候群	1	208	修正大血管転位症	2
159	スタージ・ウェーバー症候群	2	209	完全大血管転位症	5
160	結節性硬化症	3	210	単心室症	12
161	色素性乾皮症	1			
162	先天性魚鱗癬	1			

(様式第2)

高度の医療の提供の実績等

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	2	259	レンチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	3	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	28	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	7	264	無 β リポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	2	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	7	266	家族性地中海熱	5
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	13	268	小條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	3	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	3
222	一次性ネフローゼ症候群	0	270	慢性再発性多発性骨髄炎	1
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	9	271	強直性脊椎炎	27
224	紫斑病性腎炎	17	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	11	274	骨形成不全症	2
227	オスラー病	3	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	1
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α 1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	4
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	7	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	2	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クローンカイト・カナダ症候群	2
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸型)	23
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	2
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	10
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジュール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	59
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	19
254	ポルフィリン症	1	302	レーベル遺伝性視神経症	1
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュヤー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	2
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	173

(様式第2)

高度の医療の提供の実績等

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	321	非ケトース型高グリシン血症	0
308	進行性白質脳症	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
310	先天異常症候群	1	324	メチルグルタコン酸尿症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	326	大理石骨病	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	1	328	前眼部形成異常	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症	0	329	無虹彩症	0
316	カルニチン回路異常症	0	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	0
317	三頭酵素欠損症	0	331	特発性多中心性キャスルマン病	0
318	シトリン欠損症	0	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0	334	脳クレアチン欠乏症候群	0
			335	ネフロン癆	0
			336	家族性低 β リポタンパク血症1(ホモ接合体)	0
			337	ホモシスチン尿症	0
			338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

取扱疾患件数	141
患者数計	4,740

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・データ提出加算
・歯科外来診療環境体制加算2	・入退院支援加算
・特定機能病院入院基本料	・認知症ケア加算
・救急医療管理加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・超急性期脳卒中加算	・精神疾患診療体制加算
・診療録管理体制加算1	・排尿自立支援加算
・医師事務作業補助体制加算1	・地域医療体制確保加算
・急性期看護補助体制加算	・救命救急入院料1
・看護職員夜間配置加算	・救命救急入院料4
・療養環境加算	・特定集中治療室管理料2
・重症者等療養環境特別加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・無菌治療室管理加算1	・新生児治療回復室入院医療管理料
・無菌治療室管理加算2	・小児入院医療管理料1
・緩和ケア診療加算	・看護職員処遇改善評価料56
・摂食障害入院医療管理加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染対策向上加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・呼吸ケアチーム加算	・
・後発医薬品使用体制加算1	・
・病棟薬剤業務実施加算1	・
・病棟薬剤業務実施加算2	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・外来栄養食事指導料の注3に規定する基準	・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
・糖尿病合併症管理料	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・がん性疼痛緩和指導管理料	・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)
・がん患者指導管理料イ	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)
・がん患者指導管理料ロ	・角結膜悪性腫瘍切除術
・がん患者指導管理料ハ	・羊膜移植術
・がん患者指導管理料ニ	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・外来緩和ケア管理料	・緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・網膜再建術
・糖尿病透析予防指導管理料	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・小児運動器疾患指導管理料	・人工中耳植込術
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・婦人科特定疾患治療管理料	・耳管用補綴材挿入術
・腎代替療法指導管理料	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
・一般不妊治療管理料	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・生殖補助医療管理料1	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・二次性骨折予防継続管理料1	・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(一連につき)(MRIによるもの)
・二次性骨折予防継続管理料3	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・外来放射線照射診療料	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・外来腫瘍化学療法診療料1	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・ニコチン依存症管理料	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・がん治療連携計画策定料	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)

・外来排尿自立指導料	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・薬剤管理指導料	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・地域連携診療計画加算	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・医療機器安全管理料1	・胸腔鏡下弁形成術
・医療機器安全管理料2	・胸腔鏡下弁置換術
・歯科治療時医療管理料	・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的動脈弁置換術)
・禁煙治療補助システム指導管理加算	・経皮的中隔心筋焼灼術
・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・遺伝学的検査	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・染色体検査の注2に規定する基準	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・骨髄微小残存病変量測定	・経皮的下肢動脈形成術
・BRCA1/2遺伝子検査	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・がんゲノムプロファイリング検査	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
・先天性代謝異常症検査	・内視鏡的逆流防止粘膜切除術
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・検体検査管理加算(I)	・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・検体検査管理加算(IV)	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・国際標準検査管理加算	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・遺伝カウンセリング加算	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)

・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・体外衝撃波胆石破砕術
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・腹腔鏡下肝切除術
・胎児心エコー法	・腹腔鏡下胆道閉鎖症手術
・ヘッドアップティルト試験	・生体部分肝移植術
・長期継続頭蓋内脳波検査	・体外衝撃波膵石破砕術
・脳波検査判断料1	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・神経学的検査	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・補聴器適合検査	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ロービジョン検査判断料	・内視鏡的小腸ポリープ切除術
・コンタクトレンズ検査料1	・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
・内服・点滴誘発試験	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・CT透視下気管支鏡検査加算	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・画像診断管理加算3	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ポジトロン断層撮影	・同種死体腎移植術
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・生体腎移植術
・CT撮影及びMRI撮影	・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
・冠動脈CT撮影加算	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・外傷全身CT加算	・人工尿道括約筋植込・置換術
・心臓MRI撮影加算	・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
・乳房MRI撮影加算	・精巣内精子採取術
・頭部MRI撮影加算	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・全身MRI撮影加算	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・腹腔鏡下仙骨腔固定術
・外来化学療法加算1	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・無菌製剤処理料	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・無心体双胎焼灼術
・がん患者リハビリテーション料	・胎児輸血術及び臍帯穿刺

・歯科口腔リハビリテーション料2	・体外式膜型人工肺管理料
・認知療法・認知行動療法1	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
・多血小板血漿処置	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮付属器腫瘍摘出術)
・硬膜外自家血注入	・輸血管管理料 I
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・輸血適正使用加算
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・自己生体組織接着剤作成術
・人工腎臓	・同種クリオプレシピテート作製術
・導入期加算1	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・導入期加算2及び腎代替療法実績加算	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・歯根端切除手術の注3
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・レーザー機器加算
・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	・麻酔管理料(I)
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・麻酔管理料(II)
・手術用顕微鏡加算	・放射線治療専任加算
・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	・外来放射線治療加算
・センチネルリンパ節加算	・高エネルギー放射線治療
・皮膚移植術(死体)	・一回線量増加加算
・自家脂肪注入	・強度変調放射線治療(IMRT)
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))	・体外照射呼吸性移動対策加算
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・定位放射線治療
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・椎間板内酵素注入療法	・画像誘導密封小線源治療加算
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・保険医療機関間の連携による病理診断
・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	・病理診断管理加算2
・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・クラウン・ブリッジ維持管理料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・
・腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術	・
・多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	・
・LDLアフェレシス療法	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	110回(臨床への検討会出席も含む)	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	11
	剖検率(%)	1.46

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
脳腫瘍の再発予知と予防薬の開発	浅井 昭雄	脳神経外科学講座	7,930,000	補委	文部科学省・日本学術振興会 科研費
片麻痺歩行再建の治療指針を提供するAIシステムの基盤形成	長谷 公隆	リハビリテーション医学講座	6,760,000	補委	文部科学省・日本学術振興会 科研費
蛋白付着抑制コートはバイオフィルム形成を阻止しカテーテルへの細菌付着を妨げるか?	狩谷 秀治	放射線科学講座	1,040,000	補委	文部科学省・日本学術振興会 科研費
がん患者の不眠障害に対する完全在宅型心拍変動バイオフィードバックシステムの開発	蓮尾 英明	心療内科学講座	1,560,000	補委	文部科学省・日本学術振興会 科研費
食後代謝異常が造血幹細胞老化を誘導する際のヒストン脱メチル化酵素の役割	岩崎 真佳	内科学第二講座	2,080,000	補委	日本学術振興会 科研費
深層学習による冠動脈粥腫自動診断システムの開発とその臨床応用に関する研究	藤井 健一	内科学第二講座	2,470,000	補委	日本学術振興会 科研費
肝細胞癌に対するレンバチニブ内包スマートメッシュを用いた新規治療デバイスの開発	松井 康輔	外科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費
膵癌細胞におけるadipophilinの発現とグルタミン代謝メカニズムの解明	山木 壮	外科学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費
脳死ラットにおける新規心不全治療薬による心筋保護効果の検討	上林 卓彦	麻酔科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
妊娠高血圧と中枢神経性調節:機能的磁気共鳴イメージングを用いた脳機能的結合性解析	中畑 克俊	麻酔科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費
病態解明と創薬を目標とした妊娠高血圧症候群患者の血小板中microRNA解析	金沢 路子	麻酔科学講座	1,820,000	補委	日本学術振興会 科研費
プレシジョン・メディシンに向けた悪性脳腫瘍の治療パッケージの創製	埜中 正博	脳神経外科学講座	2,470,000	補委	日本学術振興会 科研費

遠隔転移の予防に向けた新規免疫調節因子の発現メカニズムの解明	岩田 亮一	脳神経外科学講座	2,730,000	補委	日本学術振興会 科研費
次世代シーケンサーによる椎間板・椎体および脊椎インプラントに存在する細菌叢の探究	足立 崇	整形外科科学講座	2,600,000	補委	日本学術振興会 科研費
乳幼児の反復性尿路感染症における腸内細菌層是正による新規予防法の確立	木全 貴久	小児科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
Augmented Realityを利用した、追体験型手術教育法の開発と評価	木下 秀文	腎泌尿器外科学講座	2,210,000	補委	日本学術振興会 科研費
免疫微小環境リモデリングに着目した尿路上皮癌新規複合免疫療法の開発	齊藤 亮一	腎泌尿器外科学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会 科研費
ミトコンドリア代謝を指標とした、新規ヒト精子品質評価技術の確立と品質維持への試み	谷口 久哲	腎泌尿器外科学講座	780,000	補委	日本学術振興会 科研費
内分泌・低酸素環境における子宮内膜分化機構の解明	岡田 英孝	産科学・婦人科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
子宮内膜免疫寛容の転写制御機構を解明する	村田 紘未	産科学・婦人科学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費
胸腺移植を用いた細胞性免疫機能改変による老人性難聴予防とヒトへの応用	杉田 侑己	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
血管リモデリングマウスを用いた血管スパズムモデルの開発と新規スパズム抑制薬の検討	松岡 祐貴	形成外科学講座	2,600,000	補委	日本学術振興会 科研費
COVID-19における急激な病態悪化メカニズムの解明および予防ターゲットの提示	伊藤 明日香	麻酔科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費
アルツハイマー病発症リスクを層別化する中年期脳微細血管障害スコアモデルの構築	薬師寺 祐介	神経内科学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費
コロナ禍による小児の貧困・体格・生活スタイルの変容	高屋 淳二	小児科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
癒着制御剤を内包したスマートシートによる術後癒着予防効果の検討	小坂 久	外科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費

腸内細菌による大腸腫瘍初期病変の異なる分子サブタイプ誘導に関する検討	田原 智満	内科学第三講座	910,000	補委	日本学術振興会 科研費
光環境サイクルという視点からの、新たな心身症治療法の可能性	福永 幹彦	心療内科学講座	650,000	補委	日本学術振興会 科研費
口輪筋と顔面表情筋群の複合的メカニズムの解明と正常な表情獲得のための基盤の検討	益岡 弘	形成外科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
サイトカイン遺伝子の一塩基多型解析とEVを用いた難治性ITPの早期診断法の開発	野村 昌作	内科学第一講座	780,000	補委	日本学術振興会 科研費
好酸球ペルオキシダーゼ抗体の存在から難治性好酸球性気道炎症の新たな治療戦略を探る	小林 良樹	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費
麻酔－ECT時間がけいれん発作の質および臨床的有効性・忍容性に及ぼす影響について	奥川 学	精神神経科学講座	910,000	補委	日本学術振興会 科研費
腸管免疫に影響を与える腸内細菌叢に着目した微小変化型ネフローゼ症候群の病因解明	辻 章志	小児科学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会 科研費
治療最適化を目指した潰瘍性大腸炎患者の腸内細菌・口腔内細菌叢の解析	長沼 誠	内科学第三講座	910,000	補委	日本学術振興会 科研費
セマフォリン4Aが移植後免疫応答に及ぼす影響の解明と新規急性GVHD制御法の開発	佐竹 敦志	内科学第一講座	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
網羅的遺伝子解析による大動脈疾患へのプレジジョンメディシンの創出	岡田 隆之	心臓血管外科学講座	780,000	補委	日本学術振興会 科研費
敗血症病態における血小板数減少と細胞死のmicroRNA網羅的解析による機序解明	竹下 淳	麻酔科学講座	260,000	補委	日本学術振興会 科研費
血小板と白血球の相互作用による敗血症増悪病態におけるmicroRNAの役割の解明	影山 京子	麻酔科学講座	260,000	補委	日本学術振興会 科研費
Augmented realityを利用した追体験型内視鏡手術教育システムの開発	松田 公志	腎泌尿器外科学講座	520,000	補委	日本学術振興会 科研費
酸素・エネルギー代謝解析によるHIF-1を機軸とした子宮内膜炎症応答の解明	中尾 朋子	産科学・婦人科学講座	910,000	補委	日本学術振興会 科研費

好酸球性気道炎症における選択的アセチルコリン受容体の機序解明と新しい治療薬の開発	神田 晃	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会 科研費
Tリンパ球分画接種による老人性難聴の予防法および予防機序の解明	岩井 大	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会 科研費
薬剤関連顎骨壊死の発症原因解明と発症予防法確立に向けた多施設共同前向き研究	兒島 由佳	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
医療面接における共感場面の社会的・生理的特徴からの客観的解明	阿部 哲也	心療内科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
浸潤性膀胱癌における新規治療ターゲットとしての一次繊毛	吉田 崇	腎泌尿器外科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費
核膜構造・機能からみるヒト遺伝性疾患の解明	塚口 裕康	内科学第二講座	1,690,000	補委	日本学術振興会 科研費
胸腺癌特異マーカーPRAMEの生物学的意義の解明と新規治療戦略への展開	谷口 洋平	呼吸器外科学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費
肺癌 invasive frontの空間的病理解析による浸潤／免疫抑制機構の解明	齊藤 朋人	呼吸器外科学講座	2,210,000	補委	日本学術振興会 科研費
敗血症病態時の好中球細胞外トラップ産生能とmicroRNAによる制御の解明	中嶋 康文	麻酔科学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会 科研費
麻酔中の脳波による鎮痛モニタリング法の開発	萩平 哲	麻酔科学講座	910,000	補委	日本学術振興会 科研費
敗血症における赤血球表面上の補体沈着と侵襲度の評価	室谷 卓	救急医学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
腸管循環系からみた敗血症ショックの新しい循環管理法の開発に関する研究	鉦方 安行	救急医学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
内向き整流Kチャネルを基軸としたグリオーマ浸潤メカニズムの解明	吉村 晋一	脳神経外科学講座	910,000	補委	日本学術振興会 科研費
超小型シークエンサーを用いた周術期感染症のオンサイト迅速モニタリング技術の開発	串田 剛俊	整形外科科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費

降下性縦隔炎の治療法構築と地域包括医療計画への提言:医療ビッグデータを用いた解析	日高 浩史	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費
機能性食品(AHCC)による膵癌治療成績改善を検証する 二重盲検無作為化比較試験	里井 壯平	外科学講座	390,000	補委	日本学術振興会 科研費
高齢食道癌患者に対する術前化学療法施工中の運動・栄養介入の有用性試験	山崎 誠	外科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
HELLP症候群における補体活性化と血管新生関連因子についての研究	森川 守	産科学・婦人科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
悪性腫瘍に対する新たな放射線塞栓療法の開発	河野 由美子	放射線科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
川崎病の罹患因子としての腸内細菌叢の役割の検討	赤川 翔平	小児科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
IFN β -1aシグナルと低酸素応答系のクロストークによる肺血管内皮バリア機能制御	角 千里	麻酔科学講座	3,250,000	補委	日本学術振興会 科研費
放射線治療計画の品質を高める包括的研究	姉帯 優介	放射線科学講座	780,000	補委	日本学術振興会 科研費
カテーテルにコーティングされたPMEAのバイオフィルム形成抑制効果の証明	小野 泰之	放射線科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
高悪性度腎細胞癌の治療薬シーズの探索	大江 知里	病理学講座	260,000	補委	日本学術振興会 科研費
強力に複数の炎症性サイトカインを抑制する新薬・DHMEQのSLEに対する治療開発	山内 壮作	小児科学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会 科研費
非アルコール性脂肪性肝炎の線維化進行と肝発癌を予測する新規バイオマーカーの開発	山口 隆志	内科学第三講座	520,000	補委	日本学術振興会 科研費
自己免疫性膵炎の発症病態や制御機構に関わるIL-35の働き	田中 敏宏	内科学第三講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
レナリドミドの移植片対宿主病に及ぼす影響の解明—制御性T細胞を中心として—	吉村 英晃	内科学第一講座	910,000	補委	日本学術振興会 科研費

活性化組織好酸球に発現するCD69の機能的役割の解明	尹 泰貴	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
弾性線維欠損マウス及び網膜光凝固術を用いたポリープ状脈絡膜血管症モデルの作成	盛 秀嗣	眼科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
眼内虚血時における病的血管新生を防ぎつつ、生理的血管新生を誘導する方法を検討する	嶋 千絵子	眼科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
淡明細胞型腎細胞癌の個別化医療を目的としたバイオマーカーの同定	大杉 治之	腎泌尿器外科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
大量ナノバブル存在下で増強したキャビテーションによる経皮吸収促進の評価	上野 裕	放射線科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費
深層学習による患者個別線量分布推定に基づいた自動放射線治療計画システムの構築	小池 優平	放射線科学講座	910,000	補委	日本学術振興会 科研費
酸素ホメオスターシス制御を切り口とした麻酔に伴う免疫応答変容の分子基盤解明	富山 尚	内科学第三講座	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
病変局所へ浸潤する好塩基球に注目した特発性蕁麻疹の病態検討	岸本 泉	皮膚科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
超小型シークエンサーを用いた外科周術期管理におけるオンサイト迅速細菌同定法の確立	小林 壽範	外科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
敗血症時の免疫抑制病態と骨髄由来抑制細胞由来microRNAによる抑制機構の役割	大平 早也佳	麻酔科学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費
救急現場オンサイトでの迅速感染症診断を可能にする超小型シークエンスシステムの確立	中村 文子	救急医学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
ストレスによる行動変容に対するドーパミンとセロトニンの役割を明らかにする研究	李 一	脳神経外科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
鼻腔産生一酸化窒素から睡眠時無呼吸症の病態を探る	河内 理咲	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費
好酸球性副鼻腔炎の克服を目指した新規融合タンパク質の鼻腔組織への有効性	清水 皆貴	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費

網膜静脈閉塞症における側副血行路形成予測方法の開発	大庭 慎平	眼科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
ヒトiPS細胞を用いた唾液腺組織の再構築と移植による唾液腺機能回復	澤田 俊輔	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
薬剤関連顎壊死の発症原因解明と発症予防法確立に向けた多施設共同前向き研究	切東 真子	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費
Mixed Reality技術を応用した新たな3次元の認知機能課題の開発	田口 周	リハビリテーション 医学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
介護保険診療における治療戦略AIの開発	長谷 公隆	リハビリテーション 医学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
グルタミン代謝がアスピリンの抗腫瘍効果に及ぼす影響	朴 将源	がんセンター	1,950,000	補委	日本学術振興会 科研費
治療最適化を目指した潰瘍性大腸炎患者の腸内細菌・口腔内細菌叢の解析	長沼 誠	内科学第三講座	1,950,000	補委	日本学術振興会 科研費
介護保険診療における治療戦略AIの開発	長谷 公隆	リハビリテーション 医学講座	4,160,000	補委	日本学術振興会 科研費
グルタミン代謝がアスピリンの抗腫瘍効果に及ぼす影響	朴 将源	がんセンター	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
小児期・移行期を含む包括的対応を要する希少難治性肝胆膵疾患の調査研究	濱田 吉則	外科学講座	150,000	補委	厚生労働省
神経変性疾患領域の基盤的調査研究	埜中 正博	脳神経外科学講座	750,000	補委	厚生労働省
患者・家族の意思決定能力に応じた適切な意思決定支援の実践に資する簡便で効果的な支援プログラムの開発に関する研究	海堀 昌樹	外科学講座	400,000	補委	厚生労働省
向精神薬の適切な継続・減量・中止等の精神科薬物療法の出口戦略の実践に資する研究	加藤 正樹	精神神経科学講座	534,000	補委	厚生労働省

慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業	水野 泰之	心療内科学講座	1,000,000	補委	厚生労働省
エビデンスに基づいた難治性炎症性腸疾患に対する治療ポジショニングの構築	長沼 誠	内科学第三講座	13,585,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
自然免疫制御による全身性エリテマトーデス治療薬の創製	伊藤 量基	内科学第一講座	3,250,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
病理学的Stage II/III で“vulnerable”な80歳以上の高齢者胃癌に対する開始量を減量したS-1 術後補助化学療法に関するランダム化比較第III 相試験	井上 健太郎	外科学講座	260,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
局所進行胃癌に対する術前化学療法の有効性を検証する臨床第III相試験	井上 健太郎	外科学講座	130,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
革新的抗がんウイルス療法の実用化臨床研究	海堀 昌樹	外科学講座	1,300,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変患者に対するG-CSF動員自家末梢血CD34陽性細胞の経肝動脈投与に関する臨床研究	海堀 昌樹	外科学講座	3,335,540	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
がん治療中のせん妄の発症予防を目指した多職種せん妄プログラムの開発	海堀 昌樹	外科学講座	1,040,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
先天性巨大色素性母斑を母地とした悪性黒色腫に対する予防的低侵襲治療方法の開発～高圧処理新規医療機器の研究開発	覚道 奈津子	形成外科学講座	650,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
精神疾患レジストリの構築・統合により新たな診断・治療法を開発するための研究	加藤 正樹	精神神経科学講座	1,950,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
ロボット支援手術における熟練技術追体験型学習システム	木下 秀文	腎泌尿器外科学講座	650,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
高齢者非小細胞肺癌患者に対する抗がん薬のPK/PDに基づく個別化医療研究	倉田 宝保	内科学第一講座	650,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
EGFR遺伝子変異陽性進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するゲフィチニブまたはオシメルチニブ単剤療法とゲフィチニブまたはオシメルチニブにシスプラチン＋ペトレキセドを途中挿入する治療とのランダム化比較試験	倉田 宝保	内科学第一講座	390,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)

TCR多様性に基づく免疫チェックポイント阻害薬の治療効果予測に関する研究	倉田 宝保	内科学第一講座	390,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
直腸癌局所再発に対する標準治療確立のための研究開発	関本 貢嗣	外科学講座	520,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
未来のがん診療に資する革新的技術を導入したバイオマーカー測定の実用性を評価する大規模前向き観察研究	薦 幸治	臨床病理学講座	130,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
オピオイド不応の神経障害性疼痛に対するプレガバリンとデュロキセチンの国際共同ランダム化比較試験	蓮尾 英明	心療内科学講座	409,474	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
下肢装具から脱却するためのリハビリテーションを支援する歩行介入エンジンの研究開発	長谷 公隆	リハビリテーション医学講座	18,232,500	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
急性骨髄性白血病に対する治療用がんペプチドワクチン「DSP-7888」のPhase2医師主導治験	佐竹 敦志	内科学第一講座	2,000,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
がん患者における患者報告アウトカム尺度開発に関する研究	木川 雄一郎	外科学講座	715,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
脳出血超急性期患者への遺伝子組換え活性化型VII因子投与の有効性と安全性を検証する研究者主導国際臨床試験	薬師寺 祐介	脳神経内科学講座	500,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
運動機能障害者の就労・教育を支援するジェスチャーインタフェースの社会実装	阿部 哲也	心療内科学講座	260,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
QOL計測とハートフルネス実践による食体験共有システム	蓮尾 英明	心療内科学講座	2,304,900	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
脳機能補完による高齢者・障がい者の機能回復支援技術の研究開発 副題: 外骨格ロボットと脳機能ニューロフィードバックによる身体および認知・感覚運動機能のICTを活用したリハビリテーションシステムの開発	長谷 公隆	リハビリテーション医学講座	5,000,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
放射線画像データおよび医師所見による骨関連事象事前予測のためのAIシステムの開発 (A145)	中村 聡明	放射線科学講座	1,130,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
心房細動を伴う脳梗塞における適切な直接経口抗凝固薬開始時期の探求	薬師寺 祐介	脳神経内科学講座	1,000,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
冠動脈組織診断における人工知能を用いた血管内画像解析技術の開発に関する研究	澁谷 裕樹	内科学第二講座	500,000	補委	公益信託日本動脈硬化予防研究基金

冠動脈組織診断における人工知能を用いた血管内画像解析技術の開発に関する研究	澁谷 裕樹	内科学第二講座	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
小児の食物アレルギーと腸内細菌叢の関連	赤川 翔平	小児科学講座	2,000,000	補委	公益財団法人ニッポンハム職の未来財団
脳アミロイドアンギオパチーにおけるNRG1シグナルの解析	村上 綾	脳神経内科学講座	400,000	補委	日本私立学校振興・共済事業団
トリプルネガティブ乳癌の癌関連線維芽細胞におけるPD-L1発現の臨床病理学的意義の解明	吉川 勝広	病理学講座	1,000,000	補委	公益財団法人大阪コミュニティ財団
尿路上皮癌における腫瘍微小環境の解明と新規バイオマーカーの探索	池田 純一	腎泌尿器外科学講座	300,000	補委	公益財団法人大阪対がん協会
膵癌における胆汁中に含有される細胞外小胞によるバイオマーカーの開発	中丸 洗	内科学第三講座	300,000	補委	公益財団法人大阪対がん協会
健常人のアルツハイマー病発症リスクに対する脳小血管病負債と喫煙の相乗効果の検証:the Kashima scan	薬師寺 祐介	脳神経内科学講座	2,000,000	補委	公益財団法人喫煙科学研究財団
妊娠成立に向けたヒト卵巣機能に及ぼす喫煙の影響	岡田 英孝	産科学・婦人科学講座	2,000,000	補委	公益財団法人喫煙科学研究財団

合計 130 件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入する

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2. 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題 名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Nomura S, Abe M, Yamaoka M, Ito T.	血液呼吸器膠原病 感染症内科	Effect of Cytokine Gene Polymorphisms on Eltrombopag Reactivity in Japanese Patients with Immune Thrombocytopenia	Journal of blood medicine 12:421-429 2021/06	Original Article
2	Konishi A, Abe M, Yamaoka M, et al.	血液呼吸器膠原病 感染症内科	Analysis of HLA haplotype and clinical factors during hematopoietic stem cell transplantation	Transplant immunology 66:101376 2021/06	Original Article
3	Ishii N, Shimizu T, Ishiura Y, Amuro H, et al.	血液呼吸器膠原病 感染症内科	A Single-Center Retrospective Observational Study Evaluating the Favorable Predictive Factors for the Disease Control Time of Treatment with Tocilizumab in Patients of Rheumatoid Arthritis	Journal of inflammation research 5(14):3721-3728 2021/08	Original Article
4	Hotta M, Satake A, Yoshimura H, et al.	血液呼吸器膠原病 感染症内科	Elevation of Early Plasma Biomarkers in Patients with Clinical Risk Factors Predicts Increased Nonrelapse Mortality after Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation	Transplantation and cellular therapy 27(8):660.e1-660.e8 2021/08	Original Article
5	Miyashita N.	血液呼吸器膠原病 感染症内科	Atypical pneumonia: Pathophysiology, diagnosis, and treatment	Respiratory investigation 60(1):56-67 2022/01	Review
6	Yoshio Ozaki, Shosaku Nomura	血液呼吸器膠原病 感染症内科	Treatment of Connective Tissue Disease-Related Intractable Disease with Biological Therapeutics	Open Access Rheumatology: Research and Reviews 13:293-303 2021/09	Review
7	Miyashita N, Nakamori Y, Ogata M, et al.	血液呼吸器膠原病 感染症内科	A warning related to predicting the severity of COVID-19 pneumonia using the A-DROP scoring system.	Journal of infection and chemotherapy 28(2):359-360 2022/02	Original Article
8	Miyashita N, Nakamori Y, Ogata M, et al.	血液呼吸器膠原病 感染症内科	Clinical Differences between Community-Acquired Mycoplasma pneumoniae Pneumonia and COVID-19 Pneumonia	Journal of clinical medicine 11(4):964 2022/02	Original Article
9	Miyashita N, Nakamori Y, Ogata M, et al.	血液呼吸器膠原病 感染症内科	Clinical differentiation of severe acute respiratory syndrome coronavirus 2 pneumonia using the Japanese guidelines	Respirology 27(1):90-92 2022/01	Original Article
10	Tsujimoto S, Ozaki Y, Ito T, et al.	血液呼吸器膠原病 感染症内科	Usefulness of Cytokine Gene Polymorphisms for the Therapeutic Choice in Japanese Patients with Rheumatoid Arthritis	Journal of General Medicine 131-139 2021/10	Others
11	Shibutani H, Fujii K, Kawakami R, et al.	循環器内分泌代謝 内科	Interobserver variability in assessments of atherosclerotic lesion type via optical frequency domain imaging	Journal of Cardiology 77(5):465-470 2021/05	Original Article
12	Matsumura K, Teranaka W, Taniichi M, et al.	循環器内分泌代謝 内科	Differential effect of malnutrition between patients hospitalized with new-onset heart failure and worsening of chronic heart failure	ESC heart failure 8(3):1819-1826 2021/06	Original Article
13	Shibutani H, Fujii K, Ueda D, et al.	循環器内分泌代謝 内科	Automated classification of coronary atherosclerotic plaque in optical frequency domain imaging based on deep learning	Atherosclerosis 328:100-105 2021/07	Original Article
14	Tsujimoto S, Fujii K, Nakai E, et al.	循環器内分泌代謝 内科	Acute aortic regurgitation underestimated by transesophageal echocardiography after preparatory balloon aortic valvuloplasty during transcatheter aortic valve implantation for severe aortic stenosis	Cardiovascular Intervention and Therapeutics 36(3):395-397 2021/07	Original Article
15	Otagaki M, Fujii K, Matsumura K, et al.	循環器内分泌代謝 内科	The incidence, natural history, and predictive factors for tissue protrusion after drug-eluting stent implantation	Catheterization and cardiovascular interventions 98(1):E62-E68 2021/07	Original Article
16	Suwa Y, Miyasaka Y, Taniguchi N, et al.	循環器内分泌代謝 内科	Predictors of in-hospital mortality in patients with infective endocarditis	Acta cardiologica 26(5):1-8 2021/08	Original Article
17	Takehana Kazuya	循環器内分泌代謝 内科	Selective Adenosine A2A Agonists May Change Myocardial Perfusion Imaging	Annals of Nuclear Cardiology 7(1):63-66 2021/08	Review
18	Wada K, Fujii K, Horitani K, et al.	循環器内分泌代謝 内科	Influence of different physiological hemodynamics on fractional flow reserve values in the left coronary artery and right coronary artery	Heart and vessels 36(8):1125-1131 2021/08	Original Article
19	Shibutani H, Fujii K, Shirakawa M, et al.	循環器内分泌代謝 内科	Diagnostic Accuracy of Optical Frequency Domain Imaging for Identifying Necrotic Cores with Intraplaque Hemorrhage in Advanced Human Carotid Plaques	The American journal of cardiology 156:123-128 2021/10	Original Article

20	Takehana Kazuya	循環器内分泌代謝内科	Importance of Visualizing Heart Failure With Nuclear Medicine Techniques	Circulation journal 85(11):2109-2110 2021/10	Others
21	Shibutani H, Fujii K, Hashimoto K, et al.	循環器内分泌代謝内科	Additional decrease in fractional flow reserve in the left anterior descending artery after hand-grip exercise during pharmacological coronary hyperemia	Heart and vessels 36(11):1611-1616 2021/11	Original Article
22	Suwa Y, Miyasaka Y, Taniguchi N, et al.	循環器内分泌代謝内科	Atrial fibrillation and stroke: importance of left atrium as assessed by echocardiography	Journal of echocardiography 20(2):69-76 2022/01	Review
23	Maruo Motonobu, Tahara Tomomitsu, Inoue Fumihiro, et al.	消化器肝臓内科	A giant Brunner gland hamartoma successfully treated by endoscopic excision followed by transanal retrieval: A case report	Medicine 100(14):e25048 2021/04	Case Report
24	Tahara T, Horiguchi N, Terada T, et al.	消化器肝臓内科	H. pylori negative gastric MALT lymphoma with API2-MALT1 translocation treated by endoscopic submucosal dissection: A case report	Medicine 100(14):e24371 2021/04	Case Report
25	Ikemune Manami, Uchida Kazushige, Tsukuda Satoshi, et al.	消化器肝臓内科	Serum free light chain assessment in type 1 autoimmune pancreatitis	Pancreatology 21(3):658-665 2021/04	Original Article
26	Takaoka M, Shimatani M, Takayama T, et al.	消化器肝臓内科	Development of Severe Acute Pancreatitis Following Uncovered Metallic Stent Placement: A Rare Case Report	Internal medicine 60(11):1703-1707 2021/06	Case Report
27	Suwa K, Seki T, Aoi K, et al.	消化器肝臓内科	Efficacy of microwave ablation versus radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma: a propensity score analysis	Abdominal Radiology 46(8):3790-3797 2021/08	Original Article
28	Yamashina T, Hanaoka N, Setoyama T, et al.	消化器肝臓内科	Efficacy of Underwater Endoscopic Mucosal Resection for Nonpedunculated Colorectal Polyps: A Systematic Review and Meta-Analysis	Cureus 13(8):e17261 2021/08	Review
29	Naganuma Makoto, Watanabe Kenji, Motoya Satoshi, et al.	消化器肝臓内科	Potential benefits of immunomodulator use with vedolizumab for maintenance of remission in ulcerative colitis	Journal of gastroenterology and hepatology 37(1):81-88 2021/08	Original Article
30	Takaori A, Ikeura T, Hori Y, et al.	消化器肝臓内科	Rectally Administered Low-Dose Diclofenac Has No Effect on Preventing Post-Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography Pancreatitis: A Propensity Score Analysis.	Pancreas 50(7):1024-1029 2021/08	Original Article
31	Shimatani M, Mitsuyama T, Tokuhara M, et al.	消化器肝臓内科	Recent advances of endoscopic retrograde cholangiopancreatography using balloon assisted endoscopy for pancreaticobiliary diseases in patients with surgically altered anatomy: Therapeutic strategy and management of difficult cases	Digestive endoscopy 33(6):912-923 2021/09	Original Article
32	Miyamoto S, Fukui T, Horitani S, et al.	消化器肝臓内科	Linker Threonine-phosphorylated Smad2/3 Is a Biomarker of Colorectal Neoplastic Stem-like Cells that Correlates With Carcinogenesis	Anticancer research 41(10):4789-4799 2021/10	Original Article
33	Koh Nakamaru, Tsukasa Ikeura, Makoto Naganuma	消化器肝臓内科	Utility of biopsy forceps lavage cytology in diagnosing malignant biliary stricture : Don't waste the sample for pathological examination	Digestive endoscopy 33(7):1195 2021/11	Original Article
34	Nakamura N, Yoshida K, Tsuda R, et al.	消化器肝臓内科	Phospho-Smad3 signaling is predictive biomarker for hepatocellular carcinoma risk assessment in primary biliary cholangitis patients	Frontiers in bioscience (Landmark edition) 26(12):1480-1492 2021/12	Original Article
35	Tomomitsu Tahara, Noriyuki Horiguchi, Tsuyoshi Terada, et al.	消化器肝臓内科	h.pylori negative gastric MALT lymphoma with API2-MALT1 translocation treated by endoscopic submucosal dissection	Medicine 100(14):1-4 2021/04	Case Report
36	Hashimoto D, Satoi S, Yamamoto T, et al.	消化器肝臓内科	Validation of the triple-checked criteria for drain management after pancreatectomy.	Journal of hepato-biliary-pancreatic sciences 29(2):271-281 2022/02	Original Article
37	Sakaguchi T, Satoi S, Hashimoto D, et al.	消化器肝臓内科	A simple risk score for detecting radiological occult metastasis in patients with resectable or borderline resectable pancreatic ductal adenocarcinoma.	Journal of hepato-biliary-pancreatic sciences 29(2):262-270 2022/02	Original Article
38	Tomiyama T, Shijimaya T, Sano Y, et al.	消化器肝臓内科	Large Metastatic Cardiac Tumor from Ascending Colon Cancer with Autopsy.	Case Reports in Gastroenterology 15(2):703-708 2021/08	Case Report
39	Takeyasu Y, Yoshida T, Motoi N, et al.	呼吸器腫瘍内科	Lorlatinib Versus Pemetrexed-Based Chemotherapy in Patients With ALK-rearranged NSCLC Previously Treated With Alectinib.	JTO Clin Res Rep. 17(3(5)):100311 2022/03	Original Article

40	Hasuo H, Ishiki H, Matsuoka H, et al.	心療内科	Clinical Characteristics of Myofascial Pain Syndrome with Psychological Stress in Patients with Cancer	JOURNAL OF PALLIATIVE MEDICINE 24(5):697-704 2021/04	Original Article
41	Hasuo H, Matsuoka H, Matsuda Y, et al.	心療内科	The Immediate Effect of Trigger Point Injection With Local Anesthetic Affects the Subsequent Course of Pain in Myofascial Pain Syndrome in Patients With Incurable Cancer by Setting Expectations as a Mediator	Frontiers in Psychiatry 12:592776-000 2021/08	Original Article
42	Kanbara K, Morita Y, Hasuo H, et al.	心療内科	The Association Between Heart Rate Variability and Quality of Life in Patients with Functional Somatic Syndrome and Healthy Controls	Applied psychophysiology and biofeedback 46(3):279-285 2021/09	Original Article
43	Hasuo H, Ishiki H, Matsuda Y, et al.	心療内科	The Usefulness of the Armchair Sign for the Diagnosis of Psychosomatic-Prone Myofascial Pain Syndrome in Patients with Incurable Cancer: A Secondary Analysis of a Prospective Multicenter Observational Clinical Study	Palliative Medicine Reports 2(1):250-254 2021/09	Original Article
44	Hasuo H, Sakai K	心療内科	Clinical characteristics of alexisomia in patients with incurable cancer	Annals of Palliative Medicine 10(10):10244-10252 2021/10	Original Article
45	Hasuo H, Ishikawa H, Matsuoka H	心療内科	Relationship between the number of breaths that maximizes heart rate variability and height in patients with incurable cancer	Complementary Therapies in Medicine 63(2021):102780 2021/10	Original Article
46	Hasuo H, Sakai K	心療内科	Clinical Characteristics of Noncancer-Related Upper Back Pain on Initiation of Palliative Care in Patients with Incurable Cancer	Palliative Medicine Reports 2(1):335-339 2021/11	Original Article
47	Hasuo H, Shimazu M, Sakamoto R, et al.	心療内科	Relationships between alexisomia and the presence of latent trigger points in the upper trapezius of healthy volunteers	Journal of Back and Musculoskeletal Rehabilitation 35(1):67-73 2022/01	Original Article
48	Kataoka Y, Sonoda K, Takahashi JC, et al.	脳神経内科	Histopathological analysis of retrieved thrombi from patients with acute ischemic stroke with malignant tumors	Journal of neurointerventional surgery 14(5):neurintsurg-2020-017195 2021/05	Original Article
49	Kunieda T, Miyake K, Sakamoto H, et al.	脳神経内科	Efficacy of pretreatment with the free radical scavenger, edaravone, for prevention of cerebral hyperperfusion after carotid artery stenting: A single-center randomized controlled trial.	Interdisciplinary Neurosurgery: Advanced Techniques and Case Management 24:101092 2021/07	Original Article
50	Murakami A, Nakamura M, Nakamura Y, et al.	脳神経内科	An autopsy case report of neuronal intermediate filament inclusion disease presenting with predominantly upper motor neuron features	Neuropathology 41(5):357-365 2021/10	Case Report
51	Tohge R, Kaneko S, Morise S, et al.	脳神経内科	Zonisamide attenuates the severity of levodopa-induced dyskinesia via modulation of the striatal serotonergic system in a rat model of Parkinson's disease	Neuropharmacology 198:108771 2021/10	Original Article
52	Murakami A, Koga S, Dickson DW.	脳神経内科	Asymmetrical Primary Lateral Sclerosis Presenting as Corticobasal Syndrome	Journal of neuropathology and experimental neurology 81(2):154-156 2022/01	Case Report
53	Itani K, Nakamura M, Wate R, et al.	脳神経内科	Efficacy and safety of tacrolimus as long-term monotherapy for myasthenia gravis.	Neuromuscular disorders : NMD 31(6):512-518 2021/06	Original Article
54	Keiichiro Nishida, Yosuke Morishima, Roberto D. Pascual-Marqui, et al.	精神神経科	Mindfulness augmentation for anxiety through concurrent use of transcranial direct current stimulation: a randomized double-blind study	scientific reports 11(1):1-12 2021/11	Original Article
55	Masaki Kato, Haruhiko Ogata, Hidetoshi Tahara, et al.	精神神経科	Multiple Pre-Treatment miRNAs Levels in Untreated Major Depressive Disorder Patients Predict Early Response to Antidepressants and Interact with Key Pathways	International Journal of Molecular Sciences 23(7):1-17 2022/03	Original Article
56	Haraguchi K, Kimata T, Akagawa S, et al.	小児科	PRES followed by cerebral salt-wasting syndrome in a child with IgA nephropathy	Pediatrics international 63(5):594-597 2021/05	Original Article
57	Yamanouchi S, Kimata T, Akagawa Y, et al.	小児科	Reduced urinary excretion of neutrophil gelatinase-associated lipocalin as a risk factor for recurrence of febrile urinary tract infection in children	Pediatric nephrology 36(6):1473-1479 2021/06	Original Article
58	Takashi Yamazoe, Ryosuke Matsuno, Yuku Akagawa, et al.	小児科	Superiority of Cystatin C over Creatinine for Early Diagnosis of Acute Kidney Injury in Pediatric Acute Lymphoblastic Leukemia/Lymphoblastic Lymphoma	The Tohoku Journal of Experimental Medicine 254(3):163-170 2021/07	Original Article
59	Takaya J, Tanabe Y, Kaneko K.	小児科	Increased lipocalin 2 levels in adolescents with type 2 diabetes mellitus	Journal of pediatric endocrinology & metabolism : JPEM 34(8):979-985 2021/08	Original Article

60	Terashima T, Fujii Y, Kino J, et al.	小児科	Ultrasound diagnosis on portal vein thrombosis in the neonate	Pediatrics international 63(8):995–996 2021/08	Original Article
61	Ayumi Fujishiro, Ryosuke Matsuno, Taichi Omachi, et al.	小児科	Multiple urolithiasis in pediatric acute lymphoblastic leukemia	Indian Journal of Child Health 8(9):340–342 2021/09	Original Article
62	Yoshimitsu Fujii, Eriko Kouhata, Kazunari Kaneko, et al.	小児科	Superiority of mosapride citrate to picosulfate sodium as a laxative for withdrawal from regular enemas in children with severe functional constipation Running title: Mosapride citrate in severe constipation	Indian Journal of Child Health 8(9):1393–1398 2021/09	Original Article
63	Akagawa S, Tsuji S, Akagawa Y, et al.	小児科	Desmopressin response in nocturnal enuresis without nocturnal polyuria in Japanese children	International journal of urology 28(9):964–968 2021/09	Original Article
64	Okamoto M, Okano Y, Okano M, et al.	小児科	Food Preferences of Patients with Citrin Deficiency	Nutrients 13(9):3123 2021/09	Original Article
65	Emori K, Matsuno R, Omachi T, et al.	小児科	The youngest Japanese case of Tolosa–Hunt syndrome	Pediatrics international 63(9):1129–1131 2021/09	Case Report
66	Tsuji Shoji, Kaneko Kazunari	小児科	The long and winding road to the etiology of idiopathic nephrotic syndrome in children: Focusing on abnormalities in the gut microbiota	Pediatrics international 63(9):1011–1019 2021/09	Review
67	Takaya Junji	小児科	Calcium–Deficiency during Pregnancy Affects Insulin Resistance in Offspring	International Journal of Molecular Sciences 22(13):7008 2021/10	Review
68	Tsuji Shoji	小児科	Criteria for nocturnal polyuria in nocturnal enuresis.	Pediatrics International 63(11):1275–1276 2021/11	Others
69	Toyama Y, Fujii Y, Hori SI, et al.	小児科	L–carnitine rescue for neonatal intractable mitochondrial cardiomyopathy	Pediatrics international 64(1):e15143 2022/01	Original Article
70	Ishizaki Y, Yanagimoto Y, Fujii Y, et al.	小児科	Psychogenic fever and postural tachycardia syndrome among school–aged children and adolescents with fever of unknown origin	BioPsychoSocial medicine 16(1):9 2022/03	Original Article
71	Tsuji S, Yamaguchi T, Akagawa Y, et al.	小児科	Significance of regulatory T cells in children with idiopathic nephrotic syndrome	Journal of nephrology 35(2):711–713 2022/03	Others
72	Omachi T, Atsumi N, Yamazoe T, et al.	小児科	Differential Diagnosis of Histiocytic Necrotizing Lymphadenitis and Malignant Lymphoma with Simple Clinical Findings	Children (Basel, Switzerland) 9(2):290 2022/02	Original Article
73	Kanda S, Fujii Y, Hori SI, et al.	小児科	Combined Single Nucleotide Variants of ORAI1 and BLK in a Child with Refractory Kawasaki Disease	Children (Basel, Switzerland) 8(6):433 2021/05	Case Report
74	Yamagishi M, Akagawa S, Akagawa Y, et al.	小児科	Decreased butyric acid–producing bacteria in gut microbiota of children with egg allergy	Allergy 76(7):2279–2282 2021/07	Others
75	Akagawa S, Akagawa Y, Nakai Y, et al.	小児科	Fiber–Rich Barley Increases Butyric Acid–Producing Bacteria in the Human Gut Microbiota	Metabolites 11(8):559 2021/08	Original Article
76	Akagawa S, Akagawa Y, Yamanouchi S, et al.	小児科	Association of neonatal jaundice with gut dysbiosis characterized by decreased Bifidobacteriales.	Metabolites. 11(12):887 2021/12	Original Article
77	Hayashi M, Nishiya K, Kaneko K.	小児科	Transition from undergraduates to residents: A SWOT analysis of the expectations and concerns of Japanese medical graduates during the COVID–19 pandemic	PLoS ONE 17(3):e0266284 2022/03	Original Article
78	Kosaka H, Kaibori M, Matsui K, et al.	外科	Investigation of a Tumor Location–Specific Therapeutic Strategy for Intrahepatic Cholangiocarcinoma	Asian Pacific journal of cancer prevention 22(5):1485–1493 2021/05	Original Article
79	Sato S, Hashimoto D, Yamamoto T, et al.	外科	How to determine the surgical extent in patients with multifocal intraductal papillary mucinous neoplasm?	Annals of Hepato–Biliary–Pancreatic Surgery 25(1):S21 2021/06	Others

80	Satoi S.	外科	Surgical Treatment of Pancreatic Ductal Adenocarcinoma	Cancers 13(16):1015 2021/08	Others
81	Kaibori M, Yoshii K, Kashiwabara K, et al.	外科	Impact of hepatitis C virus on survival in patients undergoing resection of intrahepatic cholangiocarcinoma: Report of a Japanese nationwide survey	Hepatology research 51(8):890-901 2021/08	Original Article
82	Kaibori M, Kosaka H.	外科	Effect of hydrogen gas inhalation on patient QOL after hepatectomy: protocol for a randomized controlled trial	Trials 22(1):727 2021/10	Original Article
83	Kaibori M, Matsui K, Shimada M, et al.	外科	Update on perioperative management of patients undergoing surgery for liver cancer	Annals of Gastroenterological Surgery 6(3):344-354 2021/12	Original Article
84	Kosaka H, Ueno M, Komeda K, et al.	外科	The Impact of a Preoperative Staging System on Accurate Prediction of Prognosis in Intrahepatic Cholangiocarcinoma	Cancers 14(5):1107 2022/02	Original Article
85	Kaibori M, Sakai K, Matsushima H, et al.	外科	Patients with polyclonal hepatocellular carcinoma are at a high risk of early recurrence and have a poor recurrence-free survival period	Hepatology international 16(1):135-147 2022/02	Original Article
86	Kosaka H, Kaibori M, Chu DI, et al.	外科	Role of Substance P-Dependent Chemotactic Signaling in Postoperative Adhesion Formation	The Journal of surgical research (270):49-57 2022/02	Original Article
87	Yamamoto T, Fujii T, Hirano S, et al.	外科	Randomized phase III trial of intravenous and intraperitoneal paclitaxel with S-1 versus gemcitabine plus nab-paclitaxel for pancreatic ductal adenocarcinoma with peritoneal metastasis (SP study)	Trials 23(1):119 2022/02	Original Article
88	Okunobo T, Nakamura H, Yoshimoto S, et al.	外科	The detail profile of cause of recurrences after laparoscopic percutaneous extraperitoneal closure (LPEC) in children: a systematic review	Pediatric surgery international 38(3):359-363 2022/03	Review
89	Kotsuka M, Hashimoto Y, Nakatake R, et al.	外科	Omeprazole Increases Survival Through the Inhibition of Inflammatory Mediators in Two Rat Sepsis Models	Shock 57(3):444-456 2022/03	Original Article
90	Kaibori M, Matsushima H, Matsui K, et al.	外科	Prospective Study to Evaluate the Safety and Efficacy of a New Surgical Tube Fixation Method: A Pilot Study	World journal of surgery 46(3):542-549 2022/03	Original Article
91	Kaibori M, Hiraoka A, Matsui K, et al.	外科	Predicting Complications following Surgical Resection of Hepatocellular Carcinoma Using Newly Developed Neo-Glasgow Prognostic Score with ALBI Grade: Comparison of Open and Laparoscopic Surgery Cases	Cancers 14(6):1402 2022/03	Original Article
92	Hashimoto D, Satoi S, Yamamoto T, et al.	外科	Nutritional impact of active hexose-correlated compound for patients with resectable or borderline-resectable pancreatic cancer treated with neoadjuvant therapy	Surgery today 51(11):1872-1876 2021/06	Original Article
93	Hashimoto D, Satoi S, Ishikawa H, et al.	外科	Efficacy of active hexose correlated compound on survival of patients with resectable/borderline resectable pancreatic cancer: a study protocol for a double-blind randomized phase II study	Trials 23(1):135 2022/02	Original Article
94	Kaibori M, Matsushima H, Ishizaki M, et al.	外科	The Impact of Sorafenib in Combination with Transarterial Chemoembolization on the Outcomes of Intermediate-Stage Hepatocellular Carcinoma	Asian Pacific journal of cancer prevention 22(4):1217-1224 2021/04	Original Article
95	Hamada M, Matsumi Y, Sekimoto M, et al.	外科	Image Navigation Surgery With the Fluorescent Ureteral Catheter of Recurrent Tumors in the Pelvic Cavity	Diseases of the colon and rectum 65(2):e72-e76 2022/02	Original Article
96	Kaibori M, Matsushima H, Ishizaki M, et al.	外科	The Impact of Sorafenib in Combination with Intermittent Hepatic Arterial Infusion Chemotherapy for Unresectable Hepatocellular Carcinoma with Major Vascular Invasion	Cancer investigation 40(1):81-89 2022/01	Original Article
97	Kosaka H, Kaibori M, Kariya S, et al.	外科	The percutaneous tandem drainage technique for radical treatment of intractable hepaticocjejunostomy leakage	Drug discoveries & therapeutics 15(3):169-170 2021/06	Original Article
98	Hashimoto D, Satoi S, Ishida M, et al.	外科	Does direct invasion of peripancreatic lymph nodes impact survival in patients with pancreatic ductal adenocarcinoma? A retrospective dual-center study.	Pancreatology 21(5):884-891 2021/8	Others

99	Nakano T, Kawada M, Minami K, et al.	呼吸器外科	Successful endobronchial occlusion in empyema with broncho-pleural fistula secondary to COVID-19 pneumonia: a case report and literature review	Respirology case reports 9(7):e00785 2021/04	Case Report
100	Hiroshi Matsui , Yohei Taniguchi , Natsumi Maru, et al.	呼吸器外科	Prognostic effect of preoperative red cell distribution width on the survival of patients who have undergone surgery for non-small cell lung cancer	Molecular and Clinical Oncology 14(5):108 2021/05	Original Article
101	Hino H, Utsumi T, Maru N, et al.	呼吸器外科	Clinical impact and utility of positron emission tomography on occult lymph node metastasis and survival: radical surgery for stage I lung cancer	General thoracic and cardiovascular surgery 69(8):1196-1203 2021/08	Original Article
102	Hiroshi Matsui , Tomohiro Murakawa	呼吸器外科	Potential surgical challenge: Hooking the staple stump	JTCVS TECHNIQUES 11:76-77 2021/10	Case Report
103	Hino H, Nakahama K, Ogata M, et al.	呼吸器外科	Emergent salvage surgery for massive hemoptysis after proton beam therapy for lung cancer: a case report	Surgical case reports 7(1):98 2021/04	Case Report
104	Takahiro Utsumi, Tomohito Saito, Mitsuaki Ishida, et al.	呼吸器外科	Solitary pulmonary metastasis after meningioma surgery of the head: a case report	Surgical Case Reports 8(1):26 2022/02	Case Report
105	Saito T, Ishida M, Kusabe M, Utsumi T, et al.	呼吸器外科	Hypercalcemia Owing to Overproduction of 1,25-Dihydroxyvitamin D 3 in Fetal Lung Adenocarcinoma: Case Report	JTO clinical and research reports 2(8):100204 2021/07	Case Report
106	Utsumi T, Saito T, Honda O, et al.	呼吸器外科	Right epipericardial fat necrosis after thymectomy	The Annals of thoracic surgery 113(4):259-261 2021/06	Case Report
107	The Japanese Society for Vascular Surgery Database Management Committee Member (Director: Zempo, N)	心臓血管外科	Vascular Surgery in Japan: 2015 annual report by the Japanese Society for Vascular Surgery.	Ann Vasc Dis 14(3):289-308 2021/06	Original Article
108	The Japanese Society for Vascular Surgery Database Management Committee Member (Director: Zempo, N)	心臓血管外科	Vascular Surgery in Japan: 2016 annual report by the Japanese Society for Vascular Surgery	Ann Vasc Dis 14(4):419-438 2021/08	Original Article
109	Yamamoto N, Sakashita H, Miyama N, et al.	心臓血管外科	Evaluation of perfusion index as a screening tool for developing critical limb ischemia	Annals of Vascular Diseases 14(4):328-333 2021/12	Original Article
110	Mitsuharu Hosono, Hiroshi Yasumoto, Shintaro Kuwauchi, et al.	心臓血管外科	Utility of Ultrasonographic Assessment of Distal Femoral Arterial Flow during Minimally Invasive Valve Surgery	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery 27:389-394 2021/12	Original Article
111	Nonaka M, Ueno K, Iozaki H, et al.	脳神経外科	Familial tendency in patients with lipoma of the filum terminale	Child's nervous system : ChNS 37(5):1641-1647 2021/05	Original Article
112	Yamamura Natsumi, Iwata Ryoichi, Suyama Takehiro, et al.	脳神経外科	Stent-Assisted Coil Embolization of Ruptured Blood Blister-Like Aneurysm of the Basilar Artery: A Case Report and Literature Review	JNET:Journal of Neuroendovascular Therapy 15(7):449-455 2021/07	Original Article
113	Nonaka M, Itakura T, Kawano H, et al.	脳神経外科	Resection of oculomotor nerve lesions using continuous stimulation of the oculomotor nerve proximal to the lesion: A technical report	World neurosurgery 152:56-60 2021/08	Case Report
114	Naito N, Nonaka M, Miyata M, et al.	脳神経外科	Treatment of refractory giant suprasellar arachnoid cyst by endoscopic expansion of a fenestrated stoma	Surgical neurology international 13:112 2022/03	Case Report
115	Ishihara M, Taniguchi S, Adachi T, et al.	整形外科	Rod contour and overcorrection are risk factors of proximal junctional kyphosis after adult spinal deformity correction surgery	European spine journal 30(5):1208-1214 2021/05	Original Article
116	Oe K, Sawada M, Nakamura T, et al.	整形外科	Daptomycin for the Treatment of Gram-Positive Periprosthetic Hip Infections: Can Daptomycin Prevent the Implant Removal?	Cureus 13(6):e15842 2021/06	Original Article
117	Toyama T, Hamada Y, Horii E, et al.	整形外科	Finger Rescue Using the Induced Membrane Technique for Osteomyelitis of the Hand	The journal of hand surgery Asian-Pacific volume 26(2):235-239 2021/06	Original Article

118	Ishihara M, Taniguchi S, Adachi T, et al.	整形外科	Conditions for Achieving Postoperative Pelvic Incidence–Lumbar Lordosis < 10° in Circumferential Minimally Invasive Surgery for Adult Spinal Deformity	Journal of clinical medicine 11(6):1586 2022/03	Original Article
119	Ishihara M, Taniguchi S, Kawashima K, et al.	整形外科	Bone Fusion Morphology after Circumferential Minimally Invasive Spine Surgery Using Lateral Lumbar Interbody Fusion and Percutaneous Pedicle Screws without Bone Grafting in the Thoracic Spine: A Retrospective Study	Medicina (Kaunas, Lithuania) 58(4):496 2022/03	Original Article
120	Tani Y, Saito T, Taniguchi S, et al.	整形外科	A New Treatment Algorithm That Incorporates Minimally Invasive Surgery for Pyogenic Spondylodiscitis in the Thoracic and Lumbar Spines: The Results of Its Clinical Application to a Series of 34 Patients	Medicina (Kaunas, Lithuania) 58(4):478 2022/03	Original Article
121	Takeuchi S, Uemura O, Unai K, et al.	リハビリテーション科	Adaptation and validation of the Japanese version of the Spinal Cord Independence Measure (SCIM III) self-report	Spinal cord 59(10):1096–1103 2021/10	Original Article
122	Noborio R, Nomura Y, Nakamura M, et al.	皮膚科	Efficacy of 308-nm excimer laser treatment for refractory vitiligo: a case series of treatment based on the minimal blistering dose	Journal of the European Academy of Dermatology and Venereology : JEADV 35(4):e287–e289 2021/04	Others
123	Fumikazu Yamazaki	皮膚科	Psoriasis:Comorbidities	The Journal of Dermatology 48(6):732–740 2021/06	Review
124	Kiyohara T, Tanimura H.	皮膚科	A Worrisome Case of Early In Situ Melanoma on the Leg: A Multicomponent Pattern in Dermoscopy Supportive of Malignancy	Annals of dermatology 33(5):477–478 2021/10	Original Article
125	Yuki Kitajima , Noriko Kume , Aki Tajima, et al.	皮膚科	Spindle cell squamous cell carcinoma exhibiting a metaplasia to atypical fibroxanthoma	THE JOURNAL OF DERMATOLOGY 2022(49):e44–e45 2021/10	Case Report
126	Ly NTM, Ma N, Ueda–Hayakawa I, et al.	皮膚科	Clinical and laboratory parameters predicting cancer in dermatomyositis patients with anti–TIF1 γ antibodies	Journal of dermatological science 104(3):177–184 2021/12	Original Article
127	Kaori Takezawa , Ikuko Ueda–Hayakawa , Akihiro Tanaka, et al.	皮膚科	Panniculitis in dermatomyositis: Two cases with antitranscriptional intermediary factor–1 antibody as myositis–specific antibody and review of the literature	Journal of Cutaneous Immunology and Allergy 5(3):88–93 2022/03	Case Report
128	Yamazaki F, Takehana K, Tanaka A, et al.	皮膚科	Relationship between Psoriasis and Prevalence of Cardiovascular Disease in 88 Japanese Patients	Journal of clinical medicine 10(16):3640 2021/08	Original Article
129	Ohsugi H, Yoshida T, Ohe C, et al.	腎泌尿器外科	The SSPN Score, a Novel Scoring System Incorporating PBRM1 Expression, Predicts Postoperative Recurrence for Patients with Non-metastatic Clear Cell Renal Cell Carcinoma	Annals of surgical oncology 28(4):2359–2366 2021/04	Original Article
130	Koito Y, Yanishi M, Kimura Y, et al.	腎泌尿器外科	Serum Brain-Derived Neurotrophic Factor and Myostatin Levels Are Associated With Skeletal Muscle Mass in Kidney Transplant Recipients	Transplantation proceedings 53(6):1939–1944 2021/07	Original Article
131	Inoue T, Yoshimura K, Terada N, et al.	腎泌尿器外科	Prostate-specific antigen density during dutasteride treatment for 1 year predicts the presence of prostate cancer in benign prostatic hyperplasia after the first negative biopsy (PREDICT study)	International journal of urology 28(8):849–854 2021/08	Original Article
132	Ohsugi H, Mishima T, Sugi M, et al.	腎泌尿器外科	En bloc resection of bladder tumor using transurethral enucleation with bipolar electrode: A case series	Urology Video Journal 11:100092–100092 2021/09	Case Report
133	Fukui S, Kagebayashi Y, Iemura Y, et al.	腎泌尿器外科	Severe subcutaneous emphysema caused by small injury to the abdominal wall during robot-assisted laparoscopic radical prostatectomy	Urology Case Reports 40:101904–101904 2021/10	Case Report
134	Yoshida T, Ohe C, Ikeda J, et al.	腎泌尿器外科	Integration of NRP1, RGS5, and FOXM1 expression, and tumour necrosis, as a postoperative prognostic classifier based on molecular subtypes of clear cell renal cell carcinoma	The Journal of Pathology: Clinical Research 6(6):590–603 2021/11	Original Article
135	Ohsugi H, Akiyama K, Taniguchi H, et al.	腎泌尿器外科	Tumor volume and tumor crossing of the axial renal midline predict renal function after robotic partial nephrectomy	Scientific reports 11(1):22526–22526 2021/11	Original Article
136	Fukui S, Yoshida T, Kazuyoshi N, et al.	腎泌尿器外科	Examining the Impact of Different Properties of Ureteral Access Sheaths in Reducing Insertion Force during Retrograde Intrarenal Surgery: An In Vitro Study	Journal of Endourology 35(12):1757–1763 2021/12	Original Article
137	Yanishi M, Kinoshita H, et al.	腎泌尿器外科	Urinary L-type fatty acid-binding protein is a predictor of cisplatin-induced acute kidney injury	BMC nephrology 23(1):125–125 2022/03	Original Article
138	Fukui S, Yoshida T, Nakao K	腎泌尿器外科	Successful endoscopic treatment using thulium YAG laser for multiple ureteral fibroepithelial polyps in a pediatric patient	IJU Case Reports 5(3):183–185 2022/03	Case Report

139	Takizawa N, Tanaka S, Nishimoto K, et al.	腎泌尿器外科	Familial Hyperaldosteronism Type 3 with a Rapidly Growing Adrenal Tumor: An In Situ Aldosterone Imaging Study	Current issues in molecular biology 44(1):128–138 2022/01	Case Report
140	Matsui Y, Hamada M, Matsumi Y, et al.	腎泌尿器外科	Curative resection of ureteral metastasis of rectal cancer: a case report and review of literature	Clinical Journal of Gastroenterology 15(1):151–156 2022/02	Case Report
141	Yoshida T, Murota T, Matsuzaki T, et al.	腎泌尿器外科	Photodynamic Diagnosis-guided Dual Laser Ablation for Upper Urinary Tract Carcinoma: Preoperative Preparation, Surgical Technique, and Clinical Outcomes	European urology Open science 28:17–25 2021/06	Original Article
142	Ikeda J, Ohe C, Yoshida T, et al.	腎泌尿器外科	PD-L1 Expression and Clinicopathological Factors in Renal Cell Carcinoma: A Comparison of Antibody Clone 73-10 With Clone 28-8	Anticancer research 41(9):4577–4586 2021/09	Original Article
143	Ikeda J, Ohe C, Ohsugi H, et al.	腎泌尿器外科	Association of intraductal carcinoma of the prostate detected by initial histological specimen and neuroendocrine prostate cancer: A report of three cases	Pathology international 71(9):621–626 2021/09	Case Report
144	Ohsugi H, Ohe C, Yoshida T, et al.	腎泌尿器外科	Predictors of postoperative recurrence in patients with non-metastatic pT3a renal cell carcinoma	International journal of urology 28(10):1060–1066 2021/10	Original Article
145	Yoshida T, Ohe C, Ikeda J, et al.	腎泌尿器外科	Eosinophilic features in clear cell renal cell carcinoma correlate with outcomes of immune checkpoint and angiogenesis blockade	JOURNAL FOR IMMUNOTHERAPY OF CANCER 9(9):e002922–e002922 2021/09	Original Article
146	Hisanori Taniguchi, Yoshiyuki Matsuo, Kayo Shimoi, et al.	腎泌尿器外科	Establishment of a novel assessment of the quality of human spermatozoa measuring mitochondrial oxygen metabolism	BMC research notes 15(1):123–123 2022/03	Original Article
147	Yoshida T, Takemoto K, Sakata Y, et al.	腎泌尿器外科	A randomized clinical trial evaluating the short-term results of ureteral stent encrustation in urolithiasis patients undergoing ureteroscopy: micro-computed tomography evaluation	Scientific reports 11(1):10337 2021/05	Original Article
148	Takahashi K, Iida T, Ishida S, et al.	眼科	Effectiveness of Current Treatments for Wet Age-Related Macular Degeneration in Japan: A Systematic Review and Pooled Data Analysis	Clinical ophthalmology 16:531–540 2022/02	Original Article
149	Kobayashi Y, Kanda A, Bu DV, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Omalizumab restores response to corticosteroids in patients with eosinophilic chronic rhinosinusitis and severe asthma	Biomedicines 9(7):787 2021/06	Original Article
150	Hidaka H, Tarasawa K, Fujimori K, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Identification of risk factors for mortality and delayed oral dietary intake in patients with open drainage due to deep neck infections: A nationwide study using a Japanese inpatient database	Head & neck 43(7):2002–2012 2021/07	Original Article
151	Sawada Shunsuke, Kojima Yuka, Yasui Hiroki, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Treatment and outcome of maxillary sinusitis associated with maxillary medication-related osteonecrosis	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology 33(4):408–415 2021/07	Original Article
152	Hamada S, Kobayashi Y, Sakamoto D, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Long-term sublingual immunotherapy provides better effects for patients with Japanese cedar pollinosis	Auris, nasus, larynx 48(4):646–652 2021/08	Original Article
153	Takada Y, Asako M, Kawachi R, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Sinonasal inverted papilloma associated with adenoid cystic carcinoma	Case reports in oncology 14(3):1429–1434 2021/10	Case Report
154	Takada Y, Takada T, Takayasu S, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Metastasis of primary cutaneous adenoid cystic carcinoma to the nasal septum after 17 years: A case report	Case reports in oncology 15(1):99–105 2022/02	Case Report
155	Iwai H, Inaba M, Van Bui D, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Treg and IL-1 receptor type 2-expressing CD4 + T cell-deleted CD4 + T cell fraction prevents the progression of age-related hearing loss in a mouse model	Journal of neuroimmunology 357:577628 2021/08	Original Article
156	Suzuki K, Harada H, Takeda M, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Clinicopathological investigation of secretory carcinoma cases including a successful treatment outcome using entrectinib for high-grade transformation: a case report	BMC medical genomics 15(1):6 2022/01	Case Report
157	Anetai Y, Koike Y, Takegawa H, et al.	放射線科	Evaluation approach for whole dose distribution in clinical cases using spherical projection and spherical harmonics expansion: spherical coefficient tensor and score method	Journal of radiation research 62(6):1090–1104 2021/09	Original Article
158	Yoko HarimaID, Takuro ArigaID, Yuko Kaneyasu, et al.	放射線科	Clinical value of serum biomarkers, squamous cell carcinoma antigen and apolipoprotein C-II in follow-up of patients with locally advanced cervical squamous cell carcinoma treated with radiation: A multicenter prospective cohort study	PLOS ONE doi: 10.1371/journal.pone.0259235– 2021/11	Others
159	Harima Y, Ariga T, Kaneyasu Y, et al.	放射線科	Clinical value of serum biomarkers, squamous cell carcinoma antigen and apolipoprotein C-II in follow-up of patients with locally advanced cervical squamous cell carcinoma treated with radiation: A multicenter prospective cohort study	PLoS ONE 16(11):e0259235 2021/11	Original Article

160	Kariya S, Nakatani M, Maruyama T, et al.	放射線科	Evaluation of the antithrombogenicity of poly-2-methoxyethylacrylate-coated catheters	J Vasc Access 23(1):117-122 2022/01	Original Article
161	Nobukata Kazawa, Yoriko Yamashita, Yasujirou Hirose, et al.	放射線科	The Radiologic (CT/MRI)Pathological Correlations of the Salivary Duct Carcinoma (SDC) with Hyaline Degeneration and Peripheral Nerve Invasion.	DMFR Dentomaxillofacial Radiology, 50(7):2020603 2021/04	Original Article
162	Ono Y, Kariya S, Nakatani M, et al.	放射線科	Clinical results of transarterial embolization for post-partum hemorrhage in 62 patients.	J. Obstet. Gynaecol. Res. 47(1):226-232 2021/10	Original Article
163	Ono Y, Kariya S, Nakatani M, et al.	放射線科	Subcapsular hepatic hematoma: a case of chronic expanding hematoma of the liver	BMC gastroenterology 21(1):241 2021/05	Case Report
164	Morikawa M, Yamada T, Saito Y, et al.	産科婦人科	Predictors of recurrent gestational diabetes mellitus: A Japanese multicenter cohort study and literature review.	The journal of obstetrics and gynaecology research 47(4):1292-1304 2021/04	Original Article
165	Morikawa M, Mayama M, Noshiro K, et al.	産科婦人科	Earlier onset of proteinuria or hypertension is a predictor of progression from gestational hypertension or gestational proteinuria to preeclampsia.	Scientific reports 11(1):12708 2021/06	Original Article
166	Morikawa M, Adachi T, Itakura A, et al.	産科婦人科	A retrospective cohort study using a national surveillance questionnaire to investigate the characteristics of maternal venous thromboembolism in Japan in 2018	BMC Pregnancy and Childbirth 21(1):514 2021/07	Original Article
167	Morikawa M, Matsunaga S, Makino S, et al.	産科婦人科	Effect of hypofibrinogenemia on obstetrical disseminated intravascular coagulation in Japan in 2018: a multicenter retrospective cohort study.	International journal of hematology 114(1):18-34 2021/07	Original Article
168	Morikawa M, Saito Y, Mayama M, et al.	産科婦人科	Excessive gestational weight gain during the week prior to delivery as a predictor of maternal life-threatening complications in preeclamptic women.	The journal of obstetrics and gynaecology research 47(10):3498-3508 2021/07	Original Article
169	Morikawa M, Nii M, Nakabayashi Y, et al.	産科婦人科	Capacity of Japanese institutions to manage obstetrical disseminated intravascular coagulation in 2018: A national surveillance questionnaire and retrospective cohort study	The journal of obstetrics and gynaecology research 47(9):3159-3170 2021/09	Original Article
170	Takuya Yokoe, Masato Kita, Hisato Fukuda, et al.	産科婦人科	Successful minimally invasive surgery for postpartum retroperitoneal hematoma complicated by an infection: Two case reports	Annals of Medicine and Surgery 71:103025 2021/10	Others
171	Nishigaki A, Tsubokura H, Tsuzuki-Nakao T, et al.	産科婦人科	Hypoxia: Role of SIRT1 and the protective effect of resveratrol in ovarian function	Reproductive Medicine and Biology 21(1):e12428 2021/12	Review
172	Mamoru Morikawa, Mana Obata-Yasuoka, Tatsuya Mivake, et al.	産科婦人科	Pregnant women with previous bariatric surgery are at high risk of preeclampsia: A multicenter case series and narrative literature review	Hypertension Research in Pregnancy 10(1):19-26 2022/01	Case Report
173	Komiya S, Tsuzuki-Nakao T, Asai Y, et al.	産科婦人科	The novel oral gonadotropin-releasing hormone receptor antagonist relugolix is a new option for controlled ovarian stimulation cycles	Reproductive Medicine and Biology 21(1):e12448 2022/02	Original Article
174	Morikawa M, Adachi T, Itakura A, et al.	産科婦人科	Differences in the prevention and incidence of maternal venous thromboembolism according to the type of institution in Japan in 2018: A sub-analysis of national questionnaire surveillance	The journal of obstetrics and gynaecology research 48(3):663-672 2022/03	Original Article
175	Hisamatsu Y, Murata H, Tsubokura H, et al.	産科婦人科	Matrix Metalloproteinases in Human Decidualized Endometrial Stromal Cells	Current issues in molecular biology 43(3):2111-2123 2021/11	Original Article
176	Murata H, Tanaka S, Hisamatsu Y, et al.	産科婦人科	Transcriptional regulation of LGALS9 by HAND2 and FOXO1 in human endometrial stromal cells in women with regular cycles	Molecular human reproduction 27(11):gaab063 2021/11	Original Article
177	Kamiya A, Yamada T, Yoshida, et al.	産科婦人科	Perinatal management of tension pneumothorax due to cystoamniotic shunt displacement	Congenital anomalies 62(4):181-182 2022/03	Original Article
178	T Yokoe, M Kita, T Odaka, et al.	産科婦人科	Detection of human coronavirus RNA in surgical smoke generated by surgical devices.	The Journal of hospital infection 117:89-95 2021/08	Original Article
179	Nishigaki A, Tsubokura H, Ishida M, et al.	産科婦人科	NDRG1 is expressed in human granulosa cells: An implicative role of NDRG1 in the ovary	Reproductive Medicine and Biology 21(1):e12437 2022/01	Original Article
180	Komiya S, Matsuo Y, Nakagawa S, et al.	産科婦人科	MinION, a portable long-read sequencer, enables rapid vaginal microbiota analysis in a clinical setting	BMC medical genomics 15(1):68 2022/03	Original Article
181	Nishimoto K, Umegaki T, Ohira S, et al.	麻酔科	Impact of Permissive Hypoxia and Hyperoxia Avoidance on Clinical Outcomes in Septic Patients Receiving Mechanical Ventilation: A Retrospective Single-Center Study.	BioMed research international 2021:7332027 2021/10	Original Article
182	Oi Yumiko, Soeda Takehiro, Nagao Hitomi, et al.	麻酔科	Appropriate timing of preoperative consultations for children aged 6 years or younger, based on canceled surgeries	日本小児麻酔学会誌 27(1):14-18 2021/10	Original Article

183	Uba T, Matsuo Y, Sumi C, et al.	麻酔科	Polysulfide inhibits hypoxia-elicited hypoxia-inducible factor activation in a mitochondria-dependent manner	Mitochondrion 59:255-266 2021/07	Original Article
184	Noda Y, Ishida M, Okano K, et al.	病理診断科	Fine-needle aspiration cytology of Warthin-like mucoepidermoid carcinoma: A case report with cytological review	Molecular and clinical oncology 16(1):5 2022/01	Case Report
185	Ohe C, Yoshida T, Amin MB, et al.	病理診断科	Development and validation of a vascularity-based architectural classification for clear cell renal cell carcinoma: correlation with conventional pathological prognostic factors, gene expression patterns, and clinical outcomes	Modern pathology :816-824 2021/11	Original Article
186	Ohe C, Yoshida T, Ikeda J, et al.	病理診断科	Histologic-Based Tumor-Associated Immune Cells Status in Clear Cell Renal Cell Carcinoma Correlates with Gene Signatures Related to Cancer Immunity and Clinical Outcomes	Biomedicines 10(2):323 2022/01	Original Article
187	Saiga K, Ohe C, Yoshida T, et al.	病理診断科	PBRM1 Immunohistochemical Expression Profile Correlates with Histomorphological Features and Endothelial Expression of Tumor Vasculature for Clear Cell Renal Cell Carcinoma	Cancers 14(4):1062 2022/02	Original Article
188	Daiki Wada, Koichi Hayakawa, Fukuki Saito, et al.	救急医学科	Combined brain and thoracic trauma surgery in hybrid emergency room system: a case report	BMC surgery 21(1):219 2021/04	Case Report
189	Onoe A, Kajino K, Daya MR, et al.	救急医学科	Outcomes of patients with OHCA of presumed cardiac etiology that did not achieve prehospital restoration of spontaneous circulation: The All-Japan Utstein Registry experience.	Resuscitation 162:245-250 2021/05	Original Article
190	Nakamura F, Muroya T, Onoe A, et al.	救急医学科	Effects of norepinephrine on the intestinal vascular system in rabbits with endotoxic shock	Shock 55(6):827-831 2021/06	Original Article
191	Yoshihara Tomoyuki, Kanazawa Ryuzaburo, Uchida Takanori, et al.	救急医学科	Short-Vessel Occlusion Might Indicate Higher Possibility of Success in Reperfusion following Mechanical Thrombectomy in Acute Middle Cerebral Artery Occlusion	Cerebrovascular diseases extra 11(3):131-136 2021/08	Original Article
192	Masanobu Kishimoto, Yasutaka Okamoto, Takashi Muroya, et al.	救急医学科	A Case Report on Gallstone Ileus Treated with the Endoscopy	Open Journal of Emergency Medicine 9(4):188-195 2021/12	Case Report
193	Ikoma T, Shimokawa M, Kotaka M, et al.	がんセンター	Clinical and prognostic features of patients with detailed RAS/BRAF-mutant colorectal cancer in Japan	BMC cancer 21(1):518 2021/05	Original Article
194	Satake H, Hashida H, Tanioka H, et al.	がんセンター	Hepatectomy Followed by Adjuvant Chemotherapy with 3-Month Capecitabine Plus Oxaliplatin for Colorectal Cancer Liver Metastases	The oncologist 26(7):e1125-e1132 2021/07	Original Article
195	Tanaka C, Kurose S, Morinaga J, et al.	健康科学科	Serum Angiotensin-Like Protein 2 and NT-Pro BNP Levels and Their Associated Factors in Patients with Chronic Heart Failure Participating in a Phase III Cardiac Rehabilitation Program	International heart journal 62(5):980-987 2021/09	Original Article
196	Kida K, Nishitani-Yokoyama M, Oishi S, et al.	健康科学科	Nationwide Survey of Japanese Cardiac Rehabilitation Training Facilities During the Coronavirus Disease 2019 Outbreak	Circulation reports 3(6):311-315 2021/05	Original Article
197	Itoh H, Amiya E, Narita K, et al.	健康科学科	Efficacy and Safety of Remote Cardiac Rehabilitation in the Recovery Phase of Cardiovascular Diseases: Protocol for a Multicenter, Nonrandomized, Single-Arm, Interventional Trial	JMIR research protocols 10(10):e30725 2021/10	Original Article

合計
197件

(注)1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ○申請書手続き及び判定の通知 ○研究の実施及び報告 ○有害事象の報告 ○健康被害に対する保障 ○実施制限及び再審査 ○公開	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 産学連携活動に伴い発生する利益相反を適切にマネジメントすることに関し必要な事項を定めることにより、本法人及び教職員等の社会的信頼を確保するとともに、もって教育、研究及び社会への貢献を継続的かつ適切に遂行することを目的としている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年1回 ※令和3年12月13日実施

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	・年4回、集合形式で開催 ・e-learning (eAPRIN、ICR、・Web講習)
-----------------------	--

・研修の主な内容

倫理講習会：

- ・第13回 「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の制定
- ・第14回 研究理論と統計～研究計画の科学的合理性とは～

臨床研究ワークショップ：

- ・第22回 看護研究4 「アンケート調査の基本」
- ・第23回 看護研究5 「インタビュー調査の基本」

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

多くの診療各科ではその所属する学会が定める専門医を目指して研修が行われますが、本院では研修の年ごとの具体的目標と研修計画が設定されています。また、研修を円滑に進捗させるため研修進捗状況の把握、評価し問題があれば改善を勧告する後期研修システムを備えています。

また、手術支援ロボット ダ・ヴィンチSiの導入など、高度かつ先進的な医療に関する研修を行っています。

平成25年4月には、本院に直結する新学舎がオープンし、最新の研究室、基本的な医療技術及び医療実践能力の向上を目的としたシミュレーションセンターや電子ジャーナルを取り入れた図書館などを備え研修を最高レベルで一貫して行える体制を整えています。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	125 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
伊藤 量基	血液呼吸器膠原病感染症内科	診療部長・主任教授	30年	アレルギー疾患内科またはアレルギー科、リウマチ科を含む
塩島 一郎	循環器腎内分泌代謝内科	診療部長・主任教授	36年	
長沼 誠	消化器肝臓内科	診療部長・主任教授	30年	
蓮尾 英明	心療内科	診療部長・主任教授	19年	
薬師寺 祐介	脳神経内科	診療部長・主任教授	26年	
倉田 宝保	呼吸器腫瘍内科	診療部長・主任教授	32年	
関本 貢嗣	外科	診療部長・主任教授	41年	消化器外科、乳腺外科、小児外科を含む
湊 直樹	心臓血管外科	診療部長・主任教授	41年	
村川 知弘	呼吸器外科	診療部長・主任教授	30年	
加藤 正樹	精神神経科	診療科長・准教授	25年	
金子 一成	小児科	診療部長・主任教授	38年	
浅井 昭雄	脳神経外科	診療部長・主任教授	41年	
齋藤 貴徳	整形外科	診療部長・主任教授	39年	

長谷 公隆	リハビリテーション科	診療部長・主任教授	37年	
覚道 奈津子	形成外科	診療部長・主任教授	20年	
谷崎 英昭	皮膚科	診療部長・主任教授	20年	
木下 秀文	腎泌尿器外科	診療部長・主任教授	34年	
高橋 寛二	眼科	診療部長・主任教授	38年	
岩井 大	耳鼻咽喉科	診療部長・主任教授	39年	内分泌外科を含む
谷川 昇	放射線科	診療部長・主任教授	37年	
岡田 英孝	産婦人科	診療部長・主任教授	29年	
上林 卓彦	麻酔科	診療部長・主任教授	35年	
鍬方 安行	救急医学科	診療部長・主任教授	39年	
神田 晃	臨床検査医学科	診療部長・主任教授	28年	
蔦 幸治	病理診断科	診療部長・主任教授	26年	
兒島 由佳	歯科・口腔外科	診療部長・主任教授	27年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ①QMS教育（ISO15189全般） ②内部監査勉強会 ③ハラスメント防止動画（視聴） ・研修の期間・実施回数 ①令和3年5月27日～7月30日、3回 ②令和3年9月30日 ③令和4年2月17日～2月28日 ・研修の参加人数 ① 52名 ②37名 ③57名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 松田 公志
管理担当者氏名	事務部長 藤原宏司、看護部長 島村里香、薬剤部長 谷川昇

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	管理課	
		各科診療日誌	各診療科	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	手術部	
		看護記録	各病棟	
		検査所見記録	臨床検査部	
		エックス線写真	放射線部	
		紹介状	病歴情報課	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病歴情報課	
				当院は2006年開院時から電子カルテを導入しており、保管期間は診療が完了した日から20年としている。紹介状や同意書等の紙媒体で生成されるものについては、電子カルテにスキャンし、紙媒体も原本として保管している。また、画像フィルムについてはすべてのモダリティのフィルムレス化を実施しており、現物保管は行っていない。診療録を病院外へ持ち出すことは、個人情報保護の観点から認めていない。患者データの抽出は、所定の抽出依頼書に所属部門長の承認を受けた上で医療情報部へ申請を行う。医療情報部長は利用目的を審査の上、患者データの抽出を行う。依頼者は患者データの利用が完了次第、速やかに依頼者の責任のもと患者データを削除する。
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第	従業者数を明らかにする帳簿	管理課	
		高度の医療の提供の実績	各診療科	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	各診療科	
		高度の医療の研修の実績	各診療科	
		閲覧実績	病歴情報課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携部	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課、薬剤部	
	の十一第一	条	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
			医療に係る安全管理のための職	医療安全管理部
		・保管部署で管理		
		・保管部署で管理		

		員研修の実施状況		
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	・ 保管部署で管理
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医用工学部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医用工学部	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医用工学部			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医用工学部			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	用度課
		監査委員会の設置状況	法人 総合企画課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	内部監査室
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	管理課
管理者が有する権限に関する状況	管理課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	内部監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	法人 総合企画課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 松田 公志	
閲覧担当者氏名	管理課長 船原 宏通 医事課長 越智 雅章 病歴情報課長 石原 久美子	
閲覧の求めに応じる場所	・1階 情報ライブラリー室	
閲覧の手続の概要		
・閲覧申請書を記入の上、申請窓口である管理課へ提出する。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	☑・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理に関する基本的考え方 2. 医療安全管理対策委員会その他組織に関する基本的事項 3. 職員に対する医療安全管理のための研修に関する基本方針 4. 医療事故報告等の医療安全確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5. 医療事故発生時の対応に関する基本方針 6. 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 (患者等に対する当指針の閲覧に関する基本方針を含む) 7. 患者からの相談への対応に関する基本方針 8. その他医療安全の推進のため必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 (☑・無)</p> <p>・ 開催状況：年 30回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療安全管理対策委員会 (12回) セーフティマネージャー委員会 (書面審議11回) 医療の経過検討委員会 (7回) 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 5 回
<p>・ 研修の内容 (すべて)：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○院内の安全ルール Vol. 2 ○事例から学ぶ医薬品安全Vol. 2 ○医療安全大会 ○立入検査と5事例報告 ○外部コンテンツ (e-ラーニング) <ul style="list-style-type: none"> ●抗がん剤の過量投与 ●手術部位の左右取り違い ●医療安全の基本を知る「取り違い」 ●状況把握と意志決定 ●状態管理と意欲管理 ●チームSTEPPS研修 初級編 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (☑・無)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 電子化入力による運用をしている。第1報は全職員、第2報はセーフティマネージャーが確認の上、入力を行う。 2) 事故報告等の目的は、「個人を罰することではなく事故の再発防止に活用する事である」と定めている。 3) 報告すべき事項は、療養指導・情報提供に関することからその他まで37項目であり、項目の中には、入院患者が死亡、死産した場合の死亡の事実・死亡前の状況、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要となったもので、院内で定めた水準以上の事象が発生した際の事実と発生前の状況などの項目も含まれている。 4) 報告先は、セーフティマネージャー、所属部門の部長を経て医療安全管理部、病院長である。 	

- 緊急を要する場合は、直接病院長へ報告し、指示を受けて対処する。
- 5) 医療安全管理部は報告をうけて速やかに内容を把握し、当該のセーフティーマネージャーと分析し、対策を講じる。
 - 6) 適切な報告のための職員への指導や研修
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
- 1) 死亡・死産報告の義務化と合併症報告の対象の一部基準化
 - 2) 医療安全管理マニュアルの年1回の改訂
 - 3) e-ラーニングと医療安全管理部作成のオリジナル動画配信による職員講習の実施。受講内容の理解度を測る確認テストを兼ねたアンケートの実施
 - 4) 技術研修（模擬体と超音波装置を使用したシミュレーション訓練）
 - 5) 新入職者、中途入職者への医療安全に関するオリエンテーション
 - 6) 医療事故防止策は、セーフティーマネージャーが中心となり、時系列と必要に応じてRCAを行い、背景要因を明らかにすることから立案を行う
 - 7) 事例から検討された医療の安全確保のための方策の職員への周知と周知状況の確認
 - 8) 放射線科の検査報告書の未読リストを該当診療科送付による見落とし予防対策
 - 9) 毎月、部署やセーフティーマネージャー委員へ医療安全の情報を広報するマンスリーレポートの配布。
 - 10) 医療安全管理部のHPによる広報活動

<安全ラウンド>

- 1) テーマに沿ったセーフティーマネージャー委員を交えた院内ラウンド
- 2) 医療事故発生時、発生部署、関連部署への聞き取り
- 3) 日本私立医科大学協会による他の医科大学とのWeb形式による相互ラウンド

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1 医療関連感染対策に関する基本的な考え 2 感染対策委員会の設置 3 病院感染対策マニュアル 4 感染症の報告 5 医療関連感染発生時の対応 6 職員研修の基本方針 7 患者への指針の公開 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○MRSAおよび多剤耐性菌の検出状況把握と対策 ○抗菌薬の使用状況調査と感受性の推移調査 ○抗菌薬使用報告書、TDM等の抗菌薬適正使用状況調査 ○院内感染発生時の対応、対策 ○感染対策研修会の企画および開催 ○院内ラウンドサーベイランスの実施 ○血液培養陽性症例ラウンドの実施 ○針刺事故の発生状況と事故防止対策の検討 ○感染防止対策地域連携合同カンファレンスでの報告 ○滅菌材料部滅菌状況報告 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年2回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ul style="list-style-type: none"> ○DVD <ul style="list-style-type: none"> ・ COVID-19の正しい知識・医療従事をする者の感染対策の基本 ○e-ラーニング <ul style="list-style-type: none"> ・ 清掃・リネン・環境の管理について ・ AMRに立ち向かうために ・ 確定前から始める感染対策シミュレーション「新興感染症編」 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 ・ 病棟ラウンド(ICTラウンド)時の監査内容のフィードバック ・ 感染対策研修会の開催、DVD貸出、e-ラーニング ・ 地域連携カンファレンスの開催(4回/年) 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年6回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>○医薬品安全講演会・医療安全講習会（随時、全職員対象） 今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、オンデマンドによる講習を実施</p> <p>・ 「事例から学ぶ医薬品安全 Vol.2」</p> <p>・ 事例報告研修において「ヒューマリンR注の100倍量投与事例」を取り上げ、注意喚起を行った。</p> <p>○e-ラーニング<Safety Plus>（随時、全職員対象）</p> <p>・ 「抗がん剤の過量投与」のコンテンツを課題選定して、優先的に受講するようにした。</p> <p>○その他（対象者限定）</p> <p>・ 医療安全ワンポイント講習として、日本医療安全調査機構の提言 第15号に掲載された動画「インスリンバイアル製剤による死亡事例をゼロにするために」を院内ホームページに公開し、e-ラーニングシステムからも視聴できるようにした。</p> <p>・ 新入職対象 医薬品安全研修（4月、新入職看護師・薬剤師対象）</p> <p>・ 研修医対象 医薬品安全研修（4月、新入職研修医対象）</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成（☑・無）</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>○医薬品の採用・購入</p> <p>○調剤室・病棟における医薬品の管理</p> <p>○病棟・各部門への医薬品の供給</p> <p>○外来・入院患者への医薬品使用</p> <p>○医薬品情報の収集・管理・提供</p> <p>○手術・麻酔部門における医薬品安全使用</p> <p>○救急部門・集中治療部門における医薬品安全使用</p> <p>○輸血・血液管理部門・血液浄化部門における医薬品安全使用</p> <p>○画像診断部門・内視鏡部門・外来化学療法部門・歯科領域における医薬品安全使用</p> <p>○他施設との連携に関する事項</p> <p>○事故発生時の対応</p> <p>○教育・研修</p> <p>○医薬品関連の情報システムの利用</p> <p>○その他</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備（☑・無）</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：</p> <p>○CVカテーテルを長期留置患児に対するカテーテル関連血流感染症予防を目的とした、エタノールロック法（2021.5）</p> <p>○重度の精神発達遅滞患者に対する手術前の鎮静化を目的としたデクスメトミジン注の使用（2020.7）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>○注射・処方オーダー時に掲出されるアレルギー警告表示の視認性向上（2021.5）</p> <p>○「プレグランディン膣坐剤取扱マニュアル」の新規作成（2022.1）</p> <p>○ヘパリン置換に関する説明同意文書の新規作成（2022.1）</p> <p>○がん薬物療法（抗がん剤治療）に関する説明・同意書の大幅改訂（2022.5）</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年63回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： ○特定医療機器(人工心肺、人工呼吸器、除細動器、閉鎖式保育器、血液浄化装置、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線装置)に関する取扱い説明、インシデント事案を含めた研修 ○新規購入に伴う取扱い研修実施 ○新人研修医、看護師に対する人工呼吸器、生体情報モニタ等の実機使用説明実施 ○特定医療機器の定期研修に関してはe-ラーニングにて実施 →放射線関係については放射線部で対応実施 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： ○放射線関連装置は放射線治療部において、その他の特定医療機器については医用工学部にて保守点検計画書を作成し、それに基づき定期点検を実施、点検記録簿を作成している。 特定医療機器以外では生体情報モニタ、電気メス、シリンジ、輸液ポンプ、ペースメーカー、麻酔器、逐次型空気圧式マッサージ器、低圧持続吸引器も保守点検計画にて実施している。 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば) 有 ○R3年度審議件数2件 1. TCIポンプ用ソフトウェア ポンプフォール以外の麻酔薬をシリンジポンプで外部からコントロールするソフトウェアを作成しTCIによる安定した濃度維持を行いながら投与する事を目的に使用。 2. SIXPAD Foot Fit 骨格筋量・質の低減を認めている慢性肝疾患患者に対してADL維持を目的に使用。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○日本医療評価機構、PMDA、メーカーから発出される自主回収・安全情報を院内ALL USERメールにて情報発信している。その中で当院に設置(使用)しているものは医用工学部及び、医療機器安全管理責任者、関連部署へ報告実施している。 また、医用工学部H.P上で医療機器安全情報の発信もしている。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	④・無
<p>・責任者の資格（<u>医師</u>・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>組織分掌規則に医療安全管理責任者は、「医療安全管理部、医療安全管理対策委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括する」と明記している。</p> <p>また、医療安全管理責任者は副病院長ならびに医療安全管理対策委員会の委員長である。一方、医薬品安全管理責任者と医療機器安全管理責任者は医療安全管理対策委員会の委員であり、医療安全管理委員会に業務を報告する。以上のような配置により、医療安全管理責任者は医療安全管理部門医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	⑤（6名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>○1ヶ月毎に薬品別使用量や金額使用量を集計した「院内医薬品使用状況一覧」を作成しており、当院での使用状況を把握している。</p> <p>○医薬品医療機器情報配信サービス（PMDAメディナビ）を利用するなど、国内外の医薬品情報をwebより収集している。</p> <p>○医薬品安全使用に関する情報は、必要に応じて①メール配信および②セーフティマネージャー委員会にて報告している。また、その議事録を職員全員に回覧後、議事録閲覧確認票（押印票）の回収により周知状況を把握している。</p> <p>○医薬品安全使用に関する情報は、薬剤部 薬品情報科でファイリングして整理しており、過去のメール配信記録は職員がいつでも閲覧できるようホームページ上に整理している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>○調剤時に処方箋を確認し、処方薬剤が適応外又は併用禁忌等の使用方法に該当するか否かを把握している。</p> <p>○上記に該当する場合は薬学的知見に基づき、調剤者および監査者は、提出された文献等を参考に使用の必要性やリスク検討を加え、処方の妥当性等を確認している。</p> <p>○適応外または併用禁忌等について疑義照会した場合の照会内容は、処方箋のコピーを記録として綴り、医薬品安全管理責任者に毎月報告し、保管している。</p> <p>○必要に応じて、医師に適応外または併用禁忌等について指導を行うとともに、院内全体に未承認等の医薬品の使用に関して必要な情報共有を行っている。</p> <p>・担当者の指名の有無（<u>有</u>・無）</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部， 職種：医師1名 ） （所属：薬剤部， 職種：薬剤師3名 ）</p> <p>（所属：医療安全管理部， 職種：薬剤師1名） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p>	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	☑・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (☑・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： インフォームドコンセントマニュアルに説明と同意に関する方針、手順を定めている。説明書や同意書の新規作成、改定文書は全て医療安全管理部門で確認している。実施状況は医療説明等管理責任者が参加している診療録監査小委員会で確認している。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	☑・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>○診療録等の適切な管理を行うために診療録等の記載内容の確認に関すること</p> <p>○診療録等の診療録内容等の定期的な確認に関すること</p> <p>○必要に応じて行う指導に関すること</p> <p>○診療録の記載が十分でない事例などの各部署への通知および研修に関すること</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	☑・無
<p>・所属職員：専従（ 6 ）名、専任（ ）名、兼任（ 8 ）名 うち医師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ 1 ）名 うち看護師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ 2 ）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>○医療安全管理対策委員会、医療の経過検討委員会、セーフティマネージャー委員会等医療安全管理部門の各委員会の運営と庶務に関すること。</p> <p>○医療事故や医療安全管理部が取り扱う事象が発生した場合における診療録の記録の確認、患者及び家族への説明、発生原因の究明と対応状況の確認、事象の内容から派生した事項の職員への必要な指導</p> <p>○医療に係る安全管理の連絡調整、医療安全の確保のための対策の推進、医療安全の確保に資する診療状況の把握と職員への安全意識向上の取組みとモニタリング</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（0件）、及び許可件数（0件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：
 - ・高難度新規医療技術評価委員会に対して当該高難度新規医療技術の提供の適否、実施を認める条件等について意見を求める。
 - ・当該高難度新規医療技術の提供の適否等について決定し、申請を行った診療科の長に対しその結果を適否結果通知書（様式第2号）により通知する。
 - ・当該高難度新規医療技術が適正な手続に基づいて提供されていたかどうかに関し、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認する。
 - ・高難度新規医療技術が適正な手続に基づいて提供されていたかどうか、従業者の遵守状況の確認を行う。
 - ・高難度新規医療技術の提供の適否等について決定した時及び高難度規程に定める事項の従業者の遵守状況を確認した時に、その内容について病院長に報告する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（0件）、及び許可件数（0件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：

（申請・承認した件数）

 - 未承認：0件
 - 適応外：99件
 - 禁忌：0件
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 559 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 62 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
死亡・死産報告と合併症報告の義務化について異動医師のオリエンテーション時に説明している。
セーフティマネージャー委員会（書面）での周知を実施している。
院内で発生した死亡情報および合併症報告を確認し、インシデントレポート報告がされていない診療科等には報告するよう督促を行うなど活動をしている。
毎月の医療安全管理対策委員会において死亡・死産報告と合併症報告の件数及び事例を報告し、必要に応じ改善策を審議している。審議結果は病院長へ報告している。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（）（病院名：岩手医科大学附属病院）・無
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（）（病院名：岩手医科大学附属病院）・無
- ・技術的助言の実施状況
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、相互に訪問するラウンドは原則中止することとなり、自己評価票と自己評価票に関する確認事項・質問事項のやり取りを Web 形式で行った。当該施設からの技術的な指摘はなかった。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
患者相談窓口の趣旨、設置場所、担当者と責任者、対応時間等は院内に掲示されており、患者窓口運用規程によって定められている。また相談者が不利益を受けないよう配慮し個室にて相談に応じている。相談内容によってはインシデントレポートによる報告が行われ、一部内容は医療安全管理対策委員会にも報告されて、対応を要する事項については委員会にて対策を検討している。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため集合研修はせず、オンライン形式にて実施した。当院で

作成した研修動画のオンデマンド配信と e-ラーニングでの受講とした。

当院で作成した研修動画は下記のとおり。

- ・ 院内の安全ルール Vol.2 (内容：インフォームドコンセント、事故調査制度と事故発生時の対応、指示指示受け・薬剤オーダのルール、持参薬の使用、報告書の見落とし対策)
- ・ 事例から学ぶ医薬品安全 Vol.2 (内容：血栓リスク薬の術前中止忘れ、ガベキサート注の皮膚障害、鎮静剤のワンショット静注による呼吸抑制、医薬品による HBV の再活性化)
- ・ 立入検査と 5 事例報告 (内容：立入検査について、指定された手術・注射・内視鏡・MRI・麻酔に関する 5 事例の概要と改善策について)

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・ 研修の実施状況

【管理者】

○2021 年度特定機能病院管理者研修 (2021 年 11 月 10 日)

【医療安全管理責任者】

○2021 年度特定機能病院管理者研修 (2021 年 12 月 15 日)

【医薬品安全管理責任者】

○2021 年度特定機能病院管理者研修 (2021 年 12 月 15 日)

○令和 3 年度 医療安全に関するシンポジウム

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受信状況

○日本医療機能評価機構認定病院 平成 30 年 4 月 6 日認定

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

(日本医療機能評価機構ホームページにおける公開内容)

■ 改善要望事項

・ 機能種別 一般病院 2

該当する項目はありません。

- ・ 評価を踏まえ講じた措置
- ・ 全職員を対象とした研修として、医療倫理・患者の権利・個人情報保護・接遇・ハラスメント・法令遵守をテーマとした研修会を開催した。また、開催通知を複数の方法で幅広く広報し、参加者増加を目指す努力を講じた。
- ・ 医療機器、医療器具の安全使用・適正使用に関する事項を審議する組織として「医療機器安全管理サポートチーム」を医用工学部内に設置した。前回使用医療機器の取り扱いについて、原則と例外として再利用が必要な場合の申請手順、運用ルールを同サポートチームで定めた。以上についてオールユーザーメールにて配信し、また、電子カルテ内で職員が閲覧できる環境を整えた。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> 1. 心身ともに健全にして人格高潔である医師 2. 医療安全確保のために必要な資質、能力を有している者 3. 病院の管理運営のために必要な資質、能力を有している者 4. 関西医科大学附属病院における病院理念、基本方針、医療倫理指針を理解し、遂行することができる者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 ホームページ
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 ホームページ 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
神崎秀陽	学校法人関西医科大学 常務理事	○	常任理事会から選出された理事	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
友田幸一	関西医科大学 学長		学長	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
齋藤貴徳	関西医科大学附属病院 整形外科 診療部長		附属病院部長会から選出された 診療部長	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
藤本良知	一般社団法人枚方市医師会 会長		理事長が委嘱する学外有識者	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
川添堯彬	学校法人大阪歯科大学 理事長		理事長が委嘱する学外有識者	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	○・無
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 病院の運営方針に関する事 (2) 病院の経営管理に関する事 (3) 中期計画及び事業計画に関する事 (4) 医療機能に関する事 (5) 組織に関する事 (6) 人事に関する事 (7) 施設整備に関する事 (8) 予算及び決算に関する事 (9) 高難度新規医療技術の実施に関する事 (10) 未承認の医薬品等の使用に関する事 (11) 職員の負担の軽減及び処遇の改善に資する体制の整備に関する事 (12) その他、病院の運営全般に関する事 <p>・審議の概要の従業者への周知状況 毎月1回(毎月第4火曜日午後4時から)開催の附属病院部科長会に報告し了承を得たうえで、職員に周知しています。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無(有・無)</p> <p>・公表の方法</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無(有・無)</p>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
松田 公志	○	医師	病院長
谷川 昇		医師	副病院長
齋藤 貴徳		医師	副病院長
金子 一成		医師	副病院長
藤原 宏司		事務	事務部長
島村 里香		看護師	看護部長
村中 達也		薬剤師	薬剤部副部長
仲野 俊成		医師	医療情報部副部長
川江 寛信		事務	事務部次長
越智 雅章		事務	医事課長
森本 圭祐		事務	診療情報分析室次長
大西 良和		事務	用度課長
船原 宏通		事務	管理課長
塚本 雄大		事務	管理課長
岡田 一充		事務	地域医療連携部課長
杉本 修平		事務	経理課長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無(有・)
- ・ 公表の方法
- ・ 規程の主な内容
 - 病院管理者として必要な人事及び予算執行権限について規定している。
 - ・規程の名称:附属病院組織分掌規則
 - ・条文:第3条 病院長は、病院管理者として当該病院の管理運営を掌理し、これに必要な人事及び予算執行権限を有する。
- ・ 管理者をサポートする体制(副院長、院長補佐、企画スタッフ等)及び当該職員の役割
 - 副病院長:医療安全に関すること
 - 副病院長:救急体制、手術運営に関すること
 - 副病院長:患者サービスに関すること
 - 事務部長:経営分析に関すること
 - 看護部長:看護に関すること
 - 薬剤部副部長:薬剤に関すること
 - 医療情報部副部長:医療情報に関すること
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - <看護部長>
 - ・社団法人日本私立医科大学協会主催の看護部長会議
 - <薬剤部副部長>
 - ・社団法人日本私立医科大学協会主催の薬剤部長会議
 - <事務部長>
 - ・社団法人日本私立医科大学協会主催の事務部長会議
 - <医事課長>
 - ・社団法人日本私立医科大学協会主催の医療事務研究会
 - <管理課長>
 - ・社団法人日本私立医科大学協会主催の病院庶務研究会

なお、院内においては月1回経営会議を開催し、各科の診療成績や予算に対する収支状況について情報共有を行っている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況		☑・無			
<p>・監査委員会の開催状況:年2回</p> <p>・活動の主な内容:</p> <p>(1) 附属病院の医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理対策委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務状況について管理者から報告</p> <p>(2) (1)の報告内容に関して是正措置を講ずる必要があるかどうかの意見収集</p> <p>(3) (1)、(2)の結果公表</p> <p>・監査委員会の業務実施結果の公表の有無(☑・無)</p> <p>・委員名簿の公表の有無(☑・無)</p> <p>・委員の選定理由の公表の有無(☑・無)</p> <p>・監査委員会に係る内部規程の公表の有無(有・☒)</p> <p>・公表の方法:</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由(注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
藤本 良知	枚方市医師会 名誉会長	○	地域医療に関する 学識経験者	有・☒	1
森田 眞照	市立ひらかた病 院 顧問		病院機能に関する 学識経験者	有・☒	1
永井 仁美	茨木保健所 所長		公衆衛生に関する 学識経験者	有・☒	1
吉野 敬昌	枚方信用金庫 理事長		医療を受ける側の 代表者	有・☒	2
谷川 昇	関西医科大学 医学部放射線 科学講座教授		医療に関する 学識経験者	☑・無	1
蔦 幸治	関西医科大学 臨床病理学講 座教授		臨床病理に 関する学識経験者	☑・無	1

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

通常は年4回のテーマを決めた内部監査を行っています。また、内部通報窓口となっているため、管理者の業務に関する通報があれば、対応できる体制になっています。

・ 専門部署の設置の有無(有・無)

・ 内部規程の整備の有無(有・無)

・ 内部規程の公表の有無(有・ 無)

・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 ・ 会議体の実施状況（ 年6回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/> ・ 無 ）（ 年6回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 ・ <input checked="" type="radio"/> ） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無)・ 通報件数 (年0件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無)・ 周知の方法 <p>○職員更衣室の前に学内意見箱を設置し、案内を常時掲示しています。</p>

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	①・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期	
○国際標準化機構 (ISO15189) 平成25年8月15日認定 ※臨床検査部内のみ	
○日本医療機能評価機構認定病院 平成30年4月6日認定	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	①・無
・情報発信の方法、内容等の概要	
【発信方法】 当院ホームページ	
【内容の概要】 医療圏における基幹病院の一つとして最先端医療、高度医療をおこなっており、患者さんが安心できる安全で最新の医療の提供に努め、全ての人に平等で開かれた大学病院としての社会的責務を果たしている。	
また、災害拠点病院・がん診療連携拠点病院・高度救命救急センターの指定を受けており、診療の多様化にも対応し、広く地域医療機関との連携を図り医療圏全体の充実に貢献している。	